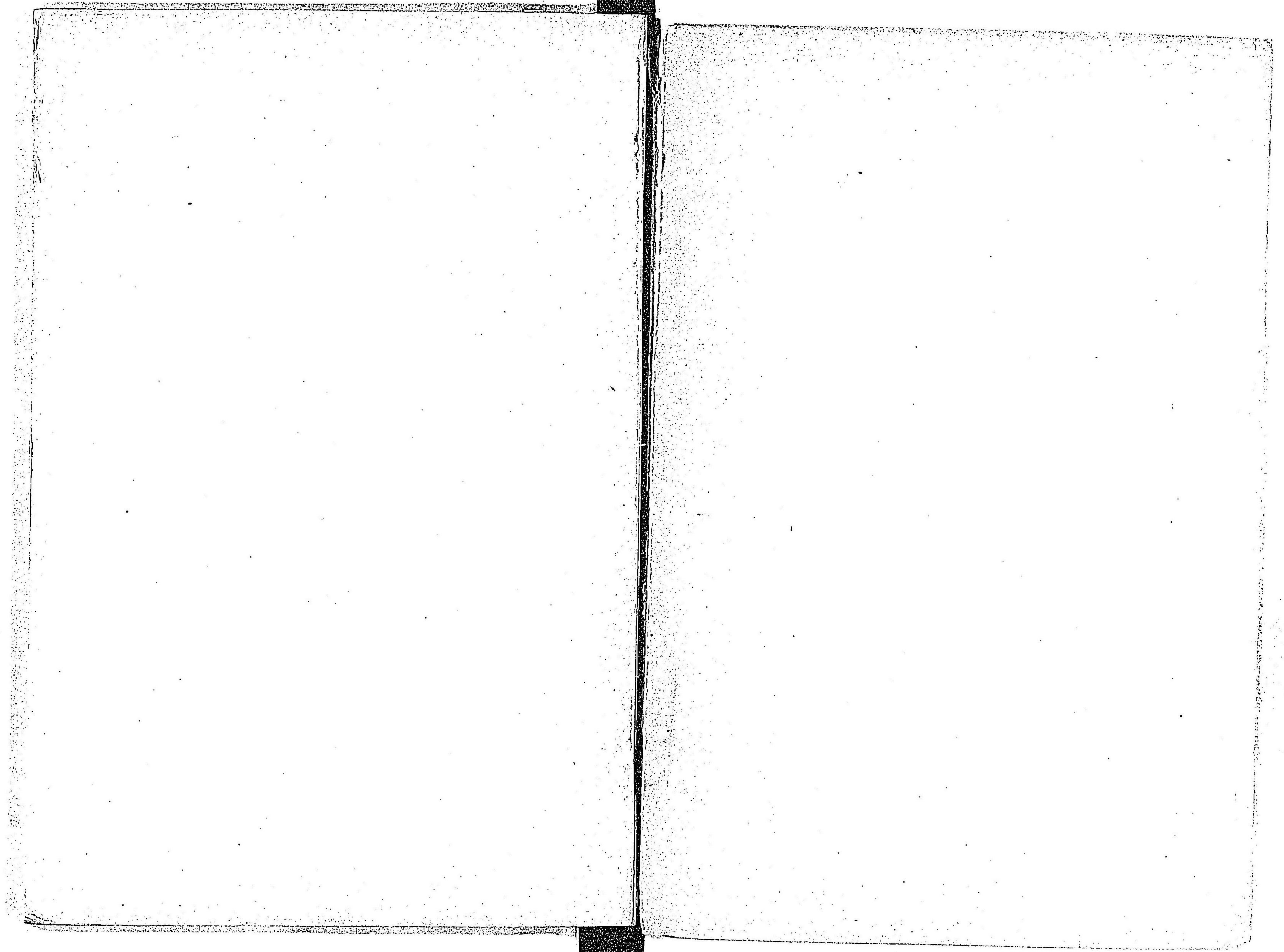


白室曲吟集全

林  
電  
了  
武  
復  
写

259  
760







特 14

799



皇室典令集  
全

明治  
11 16  
丙午



CZ  
236  
02

### 凡例

- 一 本書ハ 皇室ノ諸制度並 皇室ニ關係ヲ有スル一般ノ法令中其ノ  
須要ナルモノヲ摘録編輯スルモノナリ
- 一 本書ハ或ル一二ノ事項ヲ除クノ外官報又ハ法令全書ヲ以テ公示セ  
ラレタル明治四十二年十月一日現行ノ法令ヲ收録セリ但シ法令全  
書ノミヲ以テ公示セラレタルモノハ同年八月三十一日ノ現行トス
- 一 法令中他ノ法令ノ改正廢止ニ依リテ自然ニ消滅シ又ハ變改シタル  
廉ニハ注意符〔 〕ヲ施シ敢テ改竄ヲ加ヘス
- 一 本書中既ニ法令ノ改正廢止又ハ消滅ニ歸シタルモノヲ收録シ若ハ  
注意符ニ誤リアラハ素ヨリ編者ノ責任ナリ

凡例



皇室典令集目次

詔 勅

御誓文……………一

軍人訓戒の勅諭……………二

教育ニ關スル勅語……………七

戊申詔書……………八

帝國憲法

大日本帝國憲法……………九

皇室典範

皇室典範……………二一

皇室典範増補……………二八

御婚嫁

目次



皇室婚嫁令.....三二

御誕生

皇室誕生令.....三三

御登極

登極令.....三五

攝政

攝政令.....七七

御立儲

立儲令.....八〇

御成年式

皇室成年式令.....八八

御服

御服竝御馬具制.....一〇四

夏御服.....一〇五

御旗

天皇旗皇后旗皇太子旗親王旗制.....一〇五

行幸 行啓

臨時行幸心得方.....一〇七

臨時行幸ノ節ハ天皇旗ヲ前驅ニ掲ク.....一〇七

皇太后皇后行啓ノ節皇后旗掲揚竝御道筋通行者敬禮方.....一〇七

行幸御途中直訴建言禁止諭達方.....一〇八

皇族

皇族列次.....一〇九

皇族華族取扱規則.....一一〇



親王署名式……………一二一  
 皇族大禮服制……………一一一  
 皇族大禮佩劍制……………一一一  
 皇族家紋章ノ制……………一一二  
 親王提灯徽章……………一一三  
 皇族會議令……………一一三

御料

江戸城ヲ皇居ト定ム……………一一五  
 皇居ヲ宮城ト稱ス……………一一六  
 濱殿石室ヲ延遼館ト號ス……………一一六  
 離宮設置……………一一六  
 世傳御料……………一一八  
 御料地拂下規程……………一二〇

帝室博物館

帝室博物館出品規則並同館特別觀覽規則……………一二〇

京都帝室博物館及奈良帝室博物館社寺什寶受託規則……………一二七

御陵墓

御陵墓調査上發見ノ古墳届出方……………一三〇  
 御歷代天皇皇后及皇子女御嬪歛地等地種編入方……………一三一  
 御陵墓制札建設方……………一三二  
 御陵墓掃除方……………一三三  
 諸王墳墓中奉祀子孫ナキモノ取扱方……………一三四

御祭典 附祭祝日

新ニ神殿ヲ造リ神器ト皇靈ヲ奉安ス……………一三四  
 八神殿ヲ神殿ト稱ス……………一三五  
 皇大神宮神嘗祭御拜式並賢所御親祭日……………一三五  
 神武天皇即位日ヲ紀元節ト稱シ祝日ト定メ例年御祭典執行……………一三六  
 春秋二季皇靈祭日……………一三七  
 宣命ヲ御祭文ト改稱……………一三七  
 皇室祭祀令……………一三八



天長節御舉行……………一六一  
 五節ヲ廢シ祝日ヲ定ム……………一六二  
 祭日祝日ノ制……………一六二

### 御服喪

皇室服喪令……………一六七

### 敬禮 附服裝區分

行幸御道筋通行者敬禮方……………一七一  
 皇太后皇后行啓ノ節皇后旗掲揚竝御道筋通行者敬禮方……………一七一  
 文官大禮服着用ノ節禮式……………一七二  
 警察禮式……………一七四  
 監獄官吏禮式……………一七六  
 水上警察禮式……………一七七  
 港務部及臨時海港檢疫職員竝船舶ニ警察禮式水上警察禮式準用……………一七九  
 小林區署職員服制禮式規程……………一七九  
 北海道廳森林監守服裝帶劍竝禮式規定……………一八一

陸軍禮式……………一八一

陸軍軍屬ノ敬禮……………一九七

海軍敬禮式……………一九八

海軍監獄看守長看守ノ行フヘキ禮式……………二一七

海軍軍屬敬禮式……………二一八

海軍旗章條例……………二一九

海軍禮砲條例……………二二五

大禮服及通常禮服用日……………二三〇

文武官兼任者及警視官兼任者制服着用方……………二三四

神宮及官國幣社諸陵墓等祭典ノ節坐禮立禮及着服區分……………二三五

神宮及官國幣社諸陵墓等祭典勅使著服制……………二三五

神官神職制服……………二三六

神道諸宗教師僧侶禮服……………二三六

警察官及消防官服裝規則……………二三七

巡查服裝規則……………二三九

典獄看守長看守服裝規則……………二四〇

小林區署職員服制禮式規程……………二四一



北海道廳森林監守服裝帶劍並禮式規定……………二四一

貴族院衆議院守衛長守衛番長及守衛服裝規則……………二四二

陸軍服裝規則……………二四三

理事理事試補及陸軍監獄長服裝規則……………二四六

陸軍錄事陸軍監獄看守長陸軍監獄看守及陸軍警守服裝規則……………二四七

在郷陸軍下士兵卒制服着用スルコトヲ得ル場合……………二四七

海軍服裝規則……………二四八

海軍監獄長服裝規則……………二五二

豫備役後備役海軍下士卒制服ヲ著スヘキ場合……………二五三

參内 參賀 參拜 參入

宮中儀式上席次……………二五四

帶勳有位ノ輩新年並紀元節天長節參賀方……………二五九

新年紀元節天長節賀表書式……………二六〇

東宮御所へ新年賀表差出方……………二六一

非役從六位以上同勳六等以上ノ輩賢所皇靈神殿等祭典ノ節參拜……………二六三

天長節拜賀重服者憚ルニ及ハス……………二六三

除服出仕者御祭典奉仕參拜憚ルニ及ハス……………二六三

奏任官以上天機伺並任叙御禮申上方……………二六三

師團在勤並地方奏任官以上赴任ノ節天機窺方……………二六四

御近火ノ節勅任官ハ參朝天機伺奏任官以下ハ其官省へ參集……………二六五

御車寄其他沓ノ儘昇降ヲ許シ草履ヲ禁ス……………二六五

參内及賢所參拜吹上御苑參入昇降下乘制限……………二六六

赤阪濱芝三離宮及延邊館下乘制限……………二六八

青山離宮内假東宮御所昇降下乘制限……………二七〇

御門鑑ノ制……………二七〇

大禮服着用及勳章佩用者並制服着用軍人警察官御門通行門鑑ヲ要セス……………二七一

陸軍將校下士兵卒宮城諸御門乘馬通行資格……………二七二

諸御門通行カムリ笠差傘著帽ヲ許ス……………二七三

御名 御諱 御影 御肖像 勅語謄本

御紋章 御料文字

御諱御名ノ文字熟字ノ外人民一般相名乗ルヲ許ス……………二七四



天皇皇后兩陛下御影竝教育ニ關スル勅語謄本奉安方……………二七四  
 御肖像ニ關スル取締方……………二七六  
 菊御紋竝禁裏御用等ノ文字濫用ヲ禁ス……………二七七  
 府縣廳竝飛地出張所等門支關御紋ノ幕挑灯ヲ用キシム……………二八〇  
 官幣社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ菊御紋ヲ用ウルヲ許ス……………二八〇  
 明治二年八月菊御紋禁止ノ布告前神殿佛堂ニ裝飾セシ菊御紋ニ限リ  
 存置ヲ許ス……………二八一

### 宮内衛生

宮中衛生會規程……………二八一  
 宮内傳染病豫防令……………二八三  
 宮内傳染病豫防令施行規則……………二八八

### 宮内官制

宮内省官制……………二九五  
 内大臣府官制……………三一一  
 皇后宮職官制……………三二三

東宮職官制……………三二四

皇族附職員官制……………三二五

帝室會計審査局官制……………三一六

帝室林野管理局官制……………三一八

御歌所官制……………三三二

帝室博物館官制……………三三三

宮内官官等俸給令……………三三五

勅任待遇奏任待遇宮内職員職制……………三四四

判任待遇等外宮内職員職制……………三四六

學習院官制……………三四九

侍從武官府官制……………三五一

東宮武官官制……………三五二

皇族附陸軍武官官制……………三五三

皇族附海軍武官官制……………三五四

### 雜部

非常竝御近火ノ節號砲發射……………三五五



御近火竝非常ノ節半鐘打方……………三五六  
 皇城接近ノ場所ニ於テ開店商業ヲ許サス……………三五六  
 正式勅使參向内規……………三五六  
 刑法……………三五七

皇室典令集目次終

皇室典令集

詔勅

○御誓文

明治元年三月十四日

御誓文

廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ

上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ

一官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス

一舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定

メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

年號月日 御諱

勅意宏遠誠ニ以テ感銘ニ不堪今日ノ急務永世ノ基礎此他ニ出ヘカラス臣等謹テ 叙  
 旨ヲ奉戴シ死ヲ誓ヒ匪勉從事冀クハ以テ 宸襟ヲ安シ奉ラン



總裁名 印  
公卿 各名印  
諸侯

○軍人訓誡の勅諭

勅諭

我國に軍隊は世々天皇に統率し給ふ所よそゆふ昔神武天皇躬つから大伴物部の兵とを率る中國のまゆろをぬむのをも討ち平け給ひ高御座より即ちせられて天下まろしめ給ひより二千五百有餘年を経ぬ此間世の様に移り換るは隨ひて兵制の沿革も亦屢ありき古は天皇躬つら軍隊を率る給ふ御制にて時有りては皇后皇太子に代らせ給ふこともゆふつれと大凡兵權を臣下み委ね給ふことなかりた中世に至りて文武に制度皆唐國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左右馬寮を建て防人かと設けられしは兵制は整ひしれども打續ける昇平は狂まて朝廷の政務を漸文弱し流遷ければ兵農のつらら二は分れ古乃徴兵はいつとなく壯兵の姿は變り遂に武士となり兵馬の權は一向に其武士どもの棟梁たる者より歸し世の亂と共に政治の大權も亦其手は落ち凡七百年の間武家の政治とはありぬ世の様は移り換りて斯られるは人力もて挽回をへきよあらざらぬいひなから且は我國體に戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間しき次第なりき降りて弘化

嘉永の頃より徳川の幕府其政衰へ剩外國に事とも起りて其侮をも受けぬへき勢に迫りければ朕か皇祖仁孝天皇皇考明天皇いたく震襟を惱し給ひしこそ忝くも又惶々然るみ朕幼くして天津日嗣を受けし初征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を経えし海内一統は世とあり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良將ありて朕を輔翼せる功績なり歴世祖宗の專蒼生を憐れ給ひし御遺澤なりといへども併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重きを知るか故にこそあらされし此時に於て兵制を更め我國の光を耀さんと思ひ此十五年の程に陸海軍に制を是今に様は建定めぬ夫兵馬は大權の朕か統ふる所なれし其司々をこそ臣下は任ざられ其大綱は朕親之を攬り肯て臣下は委ぬへきものにあらず子々孫々に至るまで篤く斯旨を傳へ天子は文武の大權を掌握するの義を存して再中世以降の如き失體なからんことを望むなり朕は汝等軍人の大元帥あるそされは朕は汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰きてそ其親の特に深かるべき朕か國家を保護して上天の恵に應じ祖宗の恩に報いまわらざる事を得るを得ざるも汝等軍人か其職を盡せと盡さるるに由るを我國の稜威振えさることあらは汝等能く朕と其愛を共にせよ我武維揚と其榮を耀させ朕汝等と其譽を偕し以て汝等皆其職を守り朕と一心よあどて力を國家の保護に盡さは我國の蒼生の永く太平の福を受け我國は威烈を大に世界に光華ともかりぬへし朕斯を深く汝等軍人は望むなれし猶訓諭すべき事こそゆふいてや之を左に述べむ



一軍人は忠節を盡すを本分と見へ凡生を我國に稟くるもの誰か我國を報ゆるの心な  
かざるべき況して軍人たらん者も此心の固からず物を用い立ち得へとも思はれず  
軍人よりて報國の心堅固ならざる如何程技藝熟し學術長するも猶偶人にひと  
しかばへ其隊伍も整ひ節制も正くとも忠節を存せざる軍隊の事も臨みて鳥合の衆  
に同かるへ抑國家を保護し國權を維持するは兵力に在れは兵力の消長の是國運の  
盛衰あることを辨へ世論も惑えは政治に拘らば只一途己より自分の忠節を守り義  
の山嶽よりも重く死は鴻毛よりも輕くと覺悟せよ其操を破りて不覺を取り汚名を受  
ざるべかれ

一軍人は禮儀を正くせへ凡軍人より上元帥より下士卒に至るまで其間官職の階級  
ありて統屬あるのとから同列同級とても停年と新舊あれは新任の者の舊任のもの  
は服従すべしをその下級のものを上官の命を承ること實に直に朕か命を承る義なり  
と心得よ己が隸屬する所にあらばとも上級の者の勿論停年の己より舊きものより對  
して總へて敬禮を盡しへ又上級の者の下級のものより向ひ聊を輕侮驕傲の振舞ふ  
へからば公務の爲に威嚴を主とする時の格別な事とも其外務務めて懇小取扱ひ慈愛  
を專一と心掛け上下一致して王事に勤勞せよ若軍人たるものよきて禮儀を紊り上を  
敬め下を惠まざる一致の和諧を失ひたらんは雷軍隊の蠱毒たるのみならず國  
家の爲にもゆるし難き罪人なるべし

一軍人は武勇を尙ふへ夫武勇の我國より古より貴へる所かれは我國の臣民  
たらんものは武勇なくして叶ふまじ況して軍人を戰に臨み敵に當るの職ある片時  
も武勇を忘れてよかざるべきかされ武勇を大勇あり小勇あり同からば血氣  
を粗暴の振舞ふとせん武勇の謂ひ難し軍人たらむもの常に能く義理を辨  
へ能く膽力を練り思慮を殫めて事を謀るへ小敵たりと侮らす大敵たりと懼  
す己より武職を盡さむこそ誠の大勇にあらざれば武勇を尙ふもの常々人々接るよ  
る溫和を第一とし諸人の愛敬を得むを心掛けよ由なき勇を好みて猛威を振ひたらん  
果て世人を忌嫌ひて豺狼の如く思ひなむ心すべきこと

一軍人の信義を重んずへ凡信義を守るは常の道にあらざればわきて軍人の信義なく  
て一日も隊伍の中を交りてあらんこと難かるへ信と己か言を踐行ひ義と己  
か分を盡すをいふなりされ信義を盡さむと思ひ始めより其事の成り得へきを得  
へらざるを審み思考せよ一膽氣ある事を假初と諾ひてよかた關係を結ひ後  
至りて信義を立てんとされは進退谷りて身の措き所も苦むことあり悔ゆとも其詮  
は始に能く事の順逆を辨へ是非を考へ其言を所詮踐むべからざると知り其義のとて  
守るべからざると悟るなり速に止るこそよき古より或は小節の信義を立てんとて大  
綱の順逆を誤り或は公道の理非に踏迷ひて私情の信義を守りたら英雄豪傑と  
禍は遭ひ身を滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること其例尠らぬを深く警め



てやゝあるべき

一軍人の質素を旨とせしめ凡質素を旨とせされは文弱は流れ輕薄は趨り驕奢華麗の風を好み遂に汚に陥りて志を無下は賤くまり節操も武勇も其甲斐なく世人に爪をさせらるゝ迄に至りぬへ其身生涯の不幸なりといふも中々愚かり此風一多ひ軍人の間より起りて彼の傳染病の如く蔓延し士風も兵氣も頓に衰へぬへはこと明かり朕深く之を懼れて曩は免黜條例を施行し略此事を誠め置きつれと猶も其惡習の出んことを憂ふて心安らねぬ故に又之を訓ふるをよし汝等軍人の先此訓誡を等閑はか思ひそ

右の五ヶ條は軍人たらんをの暫を忽やすへらまさて之を行ひんふり一の誠心より大切は抑此五ヶ條の我軍人の精神より一の誠心なり又五ヶ條の精神あり心誠からざる如何ある嘉言を善行を皆うへへの裝飾して何の用よかり立つべき心たは誠あれば何事を成るものるか況してや此五ヶ條の天地の公道人倫の常經あり行ひ易く守り易く汝等軍人能く朕が訓を遵ひて此道を守り行ひ國を報ゆるの務を盡さず日本國は蒼生舉りて之を悦びかん朕一人の擇のみからんや

明治十五年一月四日

御名

○教育ニ關スル勅語

明治二十三年十月三十一日  
官報

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ知能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ成其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

詔勅



○戊申詔書

明治四十一年十月十四日  
官報

朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟シ以テ其福利ヲ共ニス朕ハ爰ニ益國交ヲ修メ友義ヲ惇シ列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ賴ラムコトヲ期ス願ミルニ日進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセムトスル固ヨリ内國運ノ發展ニ須ツ戰後日尙淺ク庶政益更張ヲ要ス宜ク上下心ヲ一ニシ忠實業ニ服シ勤儉產ヲ治メ惟レ信惟レ義醇厚俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒怠相誡メ自強息マサルヘシ抑我カ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我カ光輝アル國史ノ成跡トハ炳トシテ日星ノ如シ寔ニ克ク恪守シ涖礪ノ誠ヲ輸サハ國運發展ノ本近ク斯ニ在リ朕ハ方今ノ世局ニ處シ我カ忠良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シテ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ威德ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ

御名 御璽

明治四十一年十月十三日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎

帝國憲法

○大日本帝國憲法

告 文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

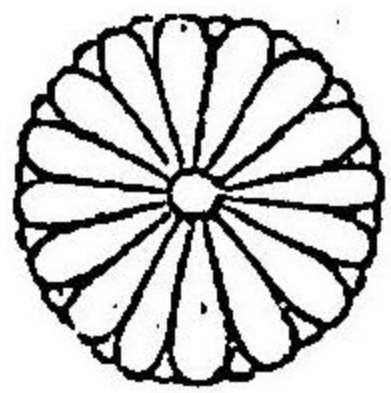
皇宗ノ神靈ニ語ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益國家人ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ





躬ニ違テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

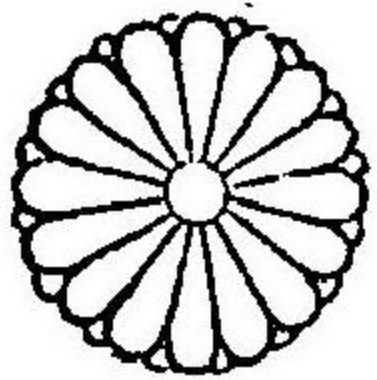
皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ

神靈此レヲ鑒ミタマハ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚



シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿徳良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民



ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

|           |        |
|-----------|--------|
| 內閣總理大臣    | 伯爵黑田清隆 |
| 樞密院議長     | 伯爵伊藤博文 |
| 外務大臣      | 伯爵大隈重信 |
| 海軍大臣      | 伯爵西鄉從道 |
| 農商務大臣     | 伯爵井上馨  |
| 司法大臣      | 伯爵山田顯義 |
| 大藏大臣兼內務大臣 | 伯爵松方正義 |
| 陸軍大臣      | 伯爵大山巖  |
| 文部大臣      | 子爵森有禮  |
| 逓信大臣      | 子爵榎本武揚 |

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス



戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ

他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セ

ラレ及搜索セララルコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教

ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ

得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ

妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍

人ニ進行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セララル議員ヲ以

テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セララル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス



第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲コトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問  
第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス



凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルト

キハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別

ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理ス

ルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ

求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル

場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府

ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ

得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ

求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費

用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ



第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス  
第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ  
會計検査院ノ組織及權限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス  
皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

皇室典範

○皇室典範

明治二十二年二月十一日

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一統歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス



第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃親王妃内親王王妃女王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后



第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシム

ルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル



第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セントスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ



第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

○皇室典範増補

天祐ヲ享有シタル我カ日本帝國皇家ノ成典ハ祖宗ノ洪範ヲ紹述シテ敢テ違フコトアルナシ而シテ人文ノ發展ハ寰宇ノ進運ニ隨ヒ制度ノ燦備ハ條章ノ増廣ヲ必トス是ノ時ニ當リ朕ハ祖宗ノ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスル所以ノ良圖ヲ惟ヒ且憲章ニ由テ以テ皇族ノ分義ヲ昭ニセムコトヲ欲シ茲ニ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範増補ヲ裁定シ朕カ子孫及臣民ヲシテ之ニ率由シテ愆ルコトナキヲ期セシム

御名 御璽

明治四十年二月十一日

- 宮内大臣 子爵田中 光顯
- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 陸軍大臣 寺内 正毅
- 農商務大臣 松岡 康毅
- 海軍大臣 齋藤 實

- 大藏大臣 法學博士 阪谷 芳郎
- 逓信大臣 山縣伊三郎
- 司法大臣 松田 正久
- 内務大臣 原 敬
- 文部大臣 牧野 伸顯
- 外務大臣 子爵林 董

皇室典範増補

第一條 王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ

第二條 王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得

第三條 前二條ニ依リ臣籍ニ入りタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ  
前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條 第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ

第六條 皇族ノ臣籍ニ入りタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス



ヲ定ム  
皇族ト人民トニ涉ル事項ニシテ各適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ規程ニ依ル

第八條 法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此ノ典範又ハ之ニ基ツキ發スル規則ニ別段ノ條規ナキトキニ限り之ヲ適用ス

明治元年九月八日  
行政官布告

今般 御即位御大禮被爲濟先例之通被爲改年號候就テハ是迄吉凶之象兆ニ隨ヒ屢改號有之候得共自今 御一代一號ニ被定候依之改慶應四年可爲明治元年旨被 仰出候事

詔書

詔體太乙而登位膺景命以改元洵聖代之典型而萬世之標準也朕雖否德幸賴 祖宗之靈祇承鴻緒躬親萬機之政乃改元欲與海內億兆更始一新其改慶應四年爲明治元年自今以後革易舊制一世一元以爲永式主者施行

明治元年九月八日

### 御婚嫁

#### ○皇室婚嫁令

明治三十三年四月二十五日  
官報

朕茲ニ樞密顧問ニ諮詢シ皇室婚嫁令ヲ定メ皇子孫ヲシテ循行スル所アラシム  
皇室婚嫁令

#### 第一章 大婚

第一條 大婚ノ禮ハ天皇滿十七年ニ達シタル後ニ於テ之ヲ行フ

第二條 天皇皇后ヲ立ツルハ皇族又ハ特ニ定ムル華族ノ女子滿十五年以上ノ者ニ限ル

第三條 大婚ノ約ヲ成ストキハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ奉幣使ヲ神宮神武天皇山陵竝先帝先后ノ山陵ニ發遣ス

第四條 大婚ノ約成リタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス

第五條 大婚ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第六條 大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告ス

第七條 大婚ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ

第八條 立后ノ詔書ハ大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ公布ス

御婚嫁



- 第九條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇靈殿神殿ニ謁ス
- 第十條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ太皇太后皇太后ニ謁ス
- 第十一條 大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ
- 第十二條 大婚ノ禮ヲ行ヒタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵竝先帝先后ノ山陵ニ謁ス
- 第十三條 立后ノ詔書公布セラレタルトキハ圖書頭其ノ事項ヲ皇統譜ニ登録ス
- ・大婚ニ關スル記録ハ圖書寮ニ於テ之ヲ尙藏ス
- 第十四條 諒闇中ハ大婚ノ禮ヲ行ハス

第二章 皇族婚嫁

- 第十五條 皇族婚嫁ノ勅許ハ其ノ約ヲ成ス前ニ於テ之ヲ奏請スヘシ
- 第十六條 皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ
- 第十七條 皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮訖リタルトキハ妃ト共ニ天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス
- 第十八條 皇太子皇太孫ノ結婚ニハ第三條第四條第五條第六條第九條第十一條第十二條ノ規定ヲ准用ス
- 第十九條 親王ノ結婚ニハ第五條第九條ノ規定王ノ結婚ニハ第九條ノ規定ヲ准用ス

第二十條 皇族ノ婚嫁ハ其ノ當日宮内大臣之ヲ公告ス

第二十一條 皇族ノ婚嫁ハ男子滿十七年女子滿十五年ニ達スルニ非サレハ之ヲ成スコトヲ得ス

- 第二十二條 皇族ノ婚嫁ハ直系親族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間之ヲ成スコトヲ得ス
- 第二十三條 皇族ノ婚嫁ハ諒闇中及皇族直系尊屬ノ喪中ノヲ成スコトヲ得ス
- 第二十四條 皇族ノ婚嫁皇室典範第三十九條第四十條ニ違フトキハ無効トス
- 第二十五條 皇族ノ離婚ハ勅許ヲ經ルヲ要ス之ニ違フトキハ無効トス
- 第二十六條 皇族ノ婚嫁ニ關スル事項ハ圖書頭之ヲ皇統譜ニ登録ス

御誕生

○皇室誕生令

明治三十五年五月二十九日 報

朕茲ニ樞密顧問ニ諮詢シ皇室誕生令ヲ定メ皇子孫ヲシテ循行スル所アラシム

皇室誕生令

第一條 皇子ノ誕生ニハ宮内大臣若ハ内大臣ヲシテ産殿ニ候セシム



- 第二條 皇子誕生シタルトキハ宮内大臣直ニ之ヲ公告ス
- 第三條 皇子誕生シタルトキハ天皇之ニ名ヲ命ス
- 第四條 皇子ノ命名ハ宮内大臣直ニ之ヲ公告ス
- 第五條 皇子ノ誕生命名ハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告ス
- 第六條 皇子誕生シテ五十日ニ至ルトキハ賢所皇靈殿神殿ニ謁ス但シ事故アルトキハ其ノ期ヲ延フルコトヲ得
- 第七條 皇族ノ子ノ誕生ニハ宮内高等官ヲ遣シ産所ニ候セシム但シ場合ニ依リ他ノ高等官ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第八條 皇太子皇太孫ノ子誕生シタルトキハ天皇之ニ命スヘキ名ヲ賜フ
- 第九條 親王王ノ子誕生シタルトキハ直系尊屬之ニ名ヲ命ス
- 第十條 皇太子皇太孫ノ子ニハ第二條第四條第五條第六條ノ規定親王王ノ子ニハ第二條第四條第六條ノ規定ヲ准用ス
- 第十一條 皇族ノ誕生命名ニ關スル事項ハ圖書頭之ヲ皇統譜ニ登録ス

### 御登極

#### ○登極令

明治四十二年二月十一日  
皇室令 第一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ登極令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 登極令

- 第一條 天皇踐祚ノ時ハ即チ掌典長ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ且踐祚ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム
- 第二條 天皇踐祚ノ後ハ直ニ元號ヲ改ム
- 第三條 元號ハ樞密顧問ニ諮詢シタル後之ヲ勅定ス
- 第四條 即位ノ禮及大嘗祭ハ秋冬ノ間ニ於テ之ヲ行フ
- 第五條 大嘗祭ハ即位ノ禮ヲ訖リタル後續テ之ヲ行フ
- 第六條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フトキハ其ノ事務ヲ掌理セシムル爲宮中ニ大禮使ヲ置ク
- 第七條 大禮使ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム



第六條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フ期日ハ宮内大臣國務各大臣ノ連署ヲ以テ之ヲ公告ス  
第七條 即位ノ禮及大嘗祭ヲ行フ期日定マリタルトキハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ  
勅使ヲシテ神宮神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵ニ奉幣セシム

第八條 大嘗祭ノ齋田ハ京都以東以南ヲ悠紀ノ地方トシ京都以西以北ヲ主基ノ地方ト  
シ其ノ地方ハ之ヲ勅定ス

第九條 悠紀主基ノ地方ヲ勅定シタルトキハ宮内大臣ハ地方長官ヲシテ齋田ヲ定メ其  
ノ所有者ニ對シ新穀ヲ供納スルノ手續ヲ爲サシム

第十條 稻實成熟ノ期至リタルトキハ勅使ヲ發遣シ齋田ニ就キ拔穂ノ式ヲ行ハシム

第十一條 即位ノ禮ヲ行フ期日ニ先タチ天皇神器ヲ奉シ皇后ト共ニ京都ノ皇宮ニ移御  
ス

第十二條 即位ノ禮ヲ行フ當日勅使ヲシテ之ヲ皇靈殿神殿ニ奉告セシム

大嘗祭ヲ行フ當日勅使ヲシテ神宮皇靈殿神殿竝官國幣社ニ奉幣セシム

第十三條 大嘗祭ヲ行フ前一日鎮魂ノ式ヲ行フ

第十四條 即位ノ禮及大嘗祭ハ附式ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第十五條 即位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ大饗ヲ賜フ

第十六條 即位ノ禮及大嘗祭訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵竝前帝  
四代ノ山陵ニ謁ス

第十七條 即位ノ禮及大嘗祭訖リテ東京ノ宮城ニ還幸シタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇  
靈殿神殿ニ謁ス

第十八條 諒闇中ハ即位ノ禮及大嘗祭ヲ行ハス

附式

第一編 踐祚ノ式

賢所ノ儀 三日間之ヲ行フ但シ第二日  
第三日ノ儀ハ御告文ナシ

時刻御殿ヲ裝飾ス

次ニ御扉ヲ開ク

次ニ神饌 色目時ニ臨ミ之ヲ定ム、以下神饌又ハ幣物ニ  
付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フ ヲ供ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ御鈴ノ儀アリ 内掌典  
奉仕

次ニ天皇御代拜 掌典長奉仕、  
衣冠單、御告文ヲ奏ス

次ニ皇后御代拜 掌典奉仕、  
衣冠單

次ニ神饌ヲ撤ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

次ニ各退下

皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀



其ノ儀賢所第一日ノ式ノ如シ御鈴ノ儀ナシ

劍璽渡御ノ儀

時刻賢所第一日ノ式ヲ行フト同時大勳位國務各大臣樞密院議長元帥便殿ニ班列ス

但シ服裝通常關係諸員亦同シ

次ニ出御御通常服、御椅子ニ著御

式部長官宮内大臣前行シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候シ皇太子又ハ皇太孫、以下

次ニ劍璽渡御侍從奉仕國璽御璽之ニ從フ内大臣祕書官捧持

式部次官内大臣前行シ侍從武官扈從ス

次ニ内大臣劍璽ヲ御前ノ案上ニ奉安ス

次ニ内大臣國璽御璽ヲ御前ノ案上ニ安ク

次ニ入御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ皇太子親王王供奉ス

次ニ内大臣國璽御璽ヲ奉シ内大臣祕書官捧持退下

次ニ各退下

(注意)天皇未成年ナルトキハ供奉員中親王ノ上ニ攝政ヲ加ヘ攝祿ニ在ルト

踐祚後朝見ノ儀  
キハ女官奉抱シ攝政奉扶ス以下之ニ倣フ

當日何時文武高官有爵者優遇者朝集所ニ參集ス召スヘキ者ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム、以下別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フ

但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ中禮服關係諸員亦同シ

次ニ式部官前導諸員正殿ニ參進本位ニ就ク

次ニ式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ天皇御正裝出御御椅子ニ著御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ皇太子親王王供奉ス

次ニ皇后御中禮服出御御椅子ニ著御

皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ皇太子妃又ハ皇太孫妃、以下親王妃内親王王妃女王供奉ス

奉ス

次ニ勅語アリ

次ニ内閣總理大臣御前ニ參進奉對ス

次ニ天皇皇后入御

供奉警蹕出御ノ時ノ如シ







次ニ天皇御拜禮御告文ヲ奏ス御給内掌  
典奉仕

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃親王妃親王妃内親王王王妃女王拜禮

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

(注意)天皇襦袢ニ在ルトキハ天皇皇后ニ關スル儀注ヲ除キ御扉ヲ開クノ前

ニ「式部官前導攝政東及親王妃内親王王王妃女王參進本位ニ就

ク」ノ項ヲ加ヘ掌典長祝詞ヲ奏スノ次ニ「御鈴ノ儀アリ内掌典  
奉仕」及「攝

政拜禮御告文ヲ奏ス」ノ二項ヲ加フ

皇靈殿神殿ニ期日奉告ノ儀

其ノ儀賢所ノ式ノ如シ御鈴ノ  
儀ナシ

神宮神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵ニ勅使發遣ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官式部官著床

但シ服裝小禮服禮裝禮服通常禮服關係諸員式部職掌典部  
職員ヲ除ク亦同シ

次ニ内閣總理大臣著床

次ニ勅使衣冠單、帶劍、  
笏、烏皮履著床

次ニ式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ出御御引  
直衣

式部長官衣冠宮内大臣同上前行シ侍從同上御劍ヲ奉シ侍從長同上侍從同上侍從武官長侍從武官

御後ニ候ス

次ニ幣物御覽掌典長  
侍立

次ニ神宮參向ノ勅使ヲ召ス

次ニ御祭文ヲ勅使ニ授ク宮内大  
臣奉仕

次ニ勅語アリ勅使退キテ幣物ノ傍ニ立ツ

次ニ幣物ヲ辛櫃ニ納ム

次ニ勅使幣物ヲ奉シ殿ヲ辭ス

此ノ時式部官警蹕ヲ稱フ



次ニ神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵參向ノ勅使ヲ順次ニ召ス

次ニ御祭文ヲ勅使ニ授ク宮内大臣奉仕勅使退キテ幣物ノ傍ニ立ツ

次ニ物幣ヲ辛櫃ニ納ム

次ニ勅使幣物ヲ奉シ殿ヲ辭ス

此ノ時式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ入御

供奉警蹕出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

(注意)天皇襪祿ニ在ルトキハ天皇ニ關スル儀注ヲ除ク勅使著床ノ次ニ「攝

政衣冠參進本位ニ就ク」及「攝政幣物ヲ檢ス學典長侍立」ノ二項ヲ加ヘ勅語ノ

項ノ「勅語アリ」ヲ「攝政勅語ヲ傳宣ス」トス

神宮ニ奉幣ノ儀

其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

神武天皇山陵竝前帝四代山陵ニ奉幣ノ儀

其ノ儀皇室祭祀令附式中山陵ニ奉幣ノ式ノ如シ

齋田點定ノ儀

當日何時神殿ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官著床

但シ服裝神宮其ノ他山陵ニ勅使發遣ノ儀ニ同シ式部職樂部職員ハ布衣單

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ齋田點定ノ儀アリ

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

齋田拔穗ノ儀

當日何時齋場ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官地方高等官著床

但シ服裝神宮其ノ他山陵ニ勅使發遣ノ儀ニ同シ



次ニ拔穂使衣冠隨員布衣ヲ從ヘ齋場ニ參進本位ニ就ク

次ニ神饌幣物ヲ供ス拔穂使隨員奉仕

次ニ拔穂使祝詞ヲ奏ス

次ニ拔穂ノ儀アリ

次ニ幣物神饌ヲ撤ス拔穂使隨員奉仕

次ニ各退下

京都ニ行幸ノ儀

當日何時賢所御殿ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官著床

但シ服裝大禮服正裝正服關係諸員亦同シ

式部職掌典部樂部職員中學典長、掌典次長、掌典、樂官ハ衣冠單、其ノ他ハ布衣單

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇御代拜侍從奉仕、衣冠單、以下天皇御代拜ノ項ニ於テ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆本儀ニ同シ

次ニ皇后御代拜女官奉仕、袴袴、以下皇后御代拜ノ項ニ於テ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆本儀ニ同シ

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御車ヲ御殿ノ南階ニ蓋ス

次ニ賢所御車ニ乘御掌典奉仕

時刻文武高官有爵者優遇者竝夫人停車場ニ參集ス

但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ通常服關係諸員亦同

シ國籍ニ奉仕スル掌典長、掌典ハ衣冠單、帶劍

次ニ皇太子皇太子妃親王妃內親王王妃女王停車場ニ參著ス

次ニ賢所御車宮城出御

天皇皇后宮城出御

鹵簿ハ第一公式ヲ用キ供奉諸員中ニ大禮使高等官掌典長掌典ヲ加フ

次ニ停車場ニ著御

此ノ時諸員奉迎

次ニ御發轍

此ノ時諸員奉迎

次ニ京都ニ著御

此ノ時在京都親王親王妃內親王王妃女王文武高官有爵者優遇者竝夫人服裝奉送諸員ニ同シ



停車場ニ奉迎ス

次ニ停車場出御

鹵簿宮城出御ノ時ノ如シ

次ニ皇宮ニ著御

賢所春輿殿ニ渡御ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官著床

但シ服裝京都ニ行幸ノ儀ニ於ケル賢所著床ノ時ノ如シ

次ニ賢所殿内ニ渡御學典奉仕

次ニ神饌ヲ供ス

次ニ掌典祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇御代拜

次ニ皇后御代拜

次ニ神饌ヲ撤ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

次ニ各退下

即位禮當日皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官著床

但シ服裝大禮服白下衣袴正裝正服關係諸員亦同シ

式部職掌典部職員中學典次長、掌典、樂官ハ衣冠單、其ノ他ハ布衣單

次ニ御扉ヲ開ク

次ニ此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

次ニ此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典次長祝詞ヲ奏ス

次ニ勅使侍從奉仕、束帶拜禮御祭文ヲ奏ス

次ニ皇后宮使女官奉仕、五衣、唐衣、裳拜禮

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

次ニ此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

次ニ此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

即位禮當日賢所大前ノ儀







次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス  
次ニ天皇出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候  
シ皇太子親王王内閣總理大臣内大臣大禮使長官供奉ス  
次ニ皇后出御

式部次官皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ皇太子妃親王妃内親王王妃女王大禮使  
次官供奉ス

次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ案上ニ奉安ス  
次ニ皇后内陣ノ御座ニ著御

皇太子皇太子妃親王妃内親王王妃女王南廂ニ侍立シ内閣總理大臣宮内大臣  
内大臣侍從長式部長官侍從皇后宮大夫式部次官女官其ノ後ニ侍立ス侍從武官長侍  
從武官便宜ノ所ニ候ス

次ニ天皇御拜禮御告文ヲ奏ス御給内紫  
典奉仕

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃親王妃内親王王妃女王拜禮

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ鉦及鼓ヲ擊ツ各三  
下

次ニ各退下

(注意)天皇襟祿ニ在ルトキハ皇太后皇太后ナキトキハ  
内親王又ハ親王妃奉抱シ御座ニ著御女官外

陣ニ候ス皇太后ノ御服ハ皇后ニ同シ御告文ハ攝政束帶  
總著御座ノ傍ニ

參進之ヲ奏ス

即位禮當日紫宸殿ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

其ノ儀本殿ノ南榮ニ日像五綵瑞雲  
ナ副フノ繡帽額ヲ懸ク母屋ノ中央南面ニ三層繼壇漆黒ヲ立テ

高御座ヲ安ク其ノ蓋上中央ノ頂ニ大鳳形金一翼、棟上ノ八角ニ小鳳形金各一翼、搏風

毎角瑞雲ノ上南北二角ニ大鏡各一面、小鏡各四面、每鏡兩傍ニ金銅彫鏤ノ八花形及唐  
草形ヲ立テ各自玉ヲ嵌入ス其ノ他ノ六

角ニ大鏡各一面、兩傍ニ金銅彫鏤ノ八花形及唐  
草形ヲ立テ各自玉ヲ嵌入ス小鏡各二面ヲ立ツ蓋下ノ中央ニ大圓鏡一面、

棟下ノ八角ニ玉簾各一旒、其ノ内面ニ御帳、深紫色小葵形  
絨、裏緋色品御帳ノ上層ニ金銅彫鏤ノ唐草



形帽額及蛇舌ヲ懸ク壇上第一層及第二層ニ赤地錦ヲ敷ク第三層ニ青地錦ヲ敷キ其ノ上ニ纏細縁疊二枚、大和錦縁龍鬚土敷一枚、大和軟錦毯代一枚、東京錦毯代一枚ヲ累敷シ御椅子ヲ立テ左右ニ螺鈿案各一脚ヲ安ク繼壇ノ下南東西三面ニ兩面錦ヲ敷キ其ノ北階ノ下ヨリ後房ニ至ル間筵道ヲ敷ク

高御座ノ東方ニ皇后ノ御座ヲ設ク其ノ儀三層繼壇<sup>漆黒</sup>ヲ立テ御帳臺<sup>八角、棟端ヲ</sup>ヲ安ク其ノ蓋上中央ノ頂ニ靈鳥形<sup>色金</sup>一翼ヲ立テ棟下ノ八角ニ玉簾各一旒、其ノ内面ニ御帳<sup>淡紫、小形、形、襖、</sup>ヲ懸ク其ノ他ノ裝飾高御座ニ準ス

軒廊ノ後面ニ綵綾軟障ヲ作リ前面ニ青簾ヲ懸ク

南庭櫻樹ノ南方ニ日像藻旒<sup>赤地錦ニ日像ヲ</sup>一旒、橘樹ノ南方ニ月像藻旒<sup>白地錦ニ月像ヲ</sup>一旒ヲ樹ツ日像藻旒ノ南ニ頭八咫鳥形大錦旒<sup>五彩瑞雲ノ錦ニ頭八咫鳥形ヲ繡シ戰竿ニ懸ク</sup>一旒、月像藻旒ノ南ニ

靈鷲形大錦旒<sup>五彩瑞雲ノ錦ニ金色靈鷲ノ形ヲ繡シ戰竿ニ懸ク</sup>一旒、菊花章中錦旒<sup>背地錦、黃地錦、赤地錦、白地錦、紫地錦各一旒、金絲ヲ以テ菊花ヲ繡シ戰竿ニ懸ク</sup>一旒、菊花章小錦旒<sup>同上</sup>左右各五旒、順次之ヲ樹ツ大錦旒ノ前面ニ萬歲旒<sup>赤地錦、上ニ殿蓋及魚形</sup>一旒、左右各一旒ヲ樹テ小錦旒ノ前面ニ鉦、鼓<sup>火細、</sup>左右各二面、梓<sup>金鏗、黒漆柄、赤色</sup>左右各十竿ヲ布列ス

時刻儀仗兵建禮門外竝建春門外ニ整列ス  
時刻文武高官有爵者優遇者竝夫人及外國交際官竝夫人日華門外竝承明門外ニ列立ス<sup>兩門外ニ列立スル者ノ區別ハ時ニ應ミ之ヲ定ム</sup>

但シ服裝賢所大前ノ儀ノ如シ關係諸員ノ服裝同儀ニ於テ各別ニ注記シタルモノ亦同シ

次ニ大禮使高等官二十人承明門、日華門、月華門、<sup>以上左右各三人</sup>長樂門、永安門<sup>以上左右各二人</sup>及左掖門、右掖門、<sup>以上左右各一人</sup>ノ外掖壇下ニ參進衛門ノ本位ニ就ク

次ニ大禮使高等官左右各一人同判任官左右各六人ヲ率キ日華門及月華門ヨリ參入シ司鉦司鼓ノ本位ニ就ク

次ニ大禮使高等官左右各二十人威儀物ヲ捧持シ日華門及月華門ヨリ參入シ中錦旒ノ前面ニ參進本位ニ就ク

次ニ大禮使高等官左右各十人日華門及月華門ヨリ參入シ南庭櫻橘ノ前面ニ參進威儀ノ本位ニ就ク

次ニ鉦及鼓ヲ擊ツ<sup>各三</sup>諸員列立

次ニ大禮使高等官前導門外列立ノ諸員殿上ノ東廂又ハ軒廊ニ參進<sup>東廂參進者ハ日華門ヨリ入リ軒廊參進者ハ承明門東西</sup>

次ニ式部長官式部次官殿上ノ南廂ニ參進本位ニ就ク式部官<sup>東帶之ニ從フ</sup>

次ニ大禮使長官大禮使次官殿上ノ南廂ニ參進式部長官式部次官ノ上班ニ就ク

次ニ内閣總理大臣宮内大臣殿上ノ南廂ニ參進大禮使長官大禮使次官ノ上班ニ就ク

次ニ皇太子親王王高御座前面ノ壇下ニ參進本位ニ就ク



次ニ式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ天皇御服實所ニ期日奉告ノ儀ニ同シ、以下天皇ノ御服ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フ高御座北階ヨリ昇御侍從劍璽ヲ御帳中ノ案上ニ奉安シ御笏ヲ供ス

内大臣高御座ニ昇リ御帳外東北隅ニ候シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官高御座後面ノ壇下ニ侍立ス

次ニ皇后御服即位禮當日實所大前ノ儀ニ同シ、以下皇后ノ御服ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フ御帳臺北階ヨリ昇御女官御檜扇ヲ供ス  
皇太子妃親王妃内親王妃女王御帳臺前面壇下ニ參進本位ニ就キ皇后宮大夫女官御帳臺ノ後面ノ壇下ニ侍立ス

次ニ侍從二人分進高御座ノ東西兩階ヨリ壇上ニ昇リ御帳ヲ褰ク訖テ座ニ復ス

次ニ女官二人分進御帳臺ノ東西兩階ヨリ壇上ニ昇リ御帳ヲ褰ク訖テ座ニ復ス

次ニ天皇御笏ヲ端シ立御

次ニ皇后御檜扇ヲ執リ立御

次ニ諸員最敬禮

次ニ内閣總理大臣西階ヲ降り南庭ニ北面シテ立ツ

次ニ勅語アリ

次ニ内閣總理大臣南階ヲ昇リ南榮ノ下ニ於テ壽詞ヲ奏シ南階ヲ降ル

次ニ内閣總理大臣萬歲旛ノ前面ニ參進萬歲ヲ稱フ三諸員之ニ和ス訖テ西階ヲ降り座ニ

復ス

次ニ天皇皇后入御

警蹕出御ノ時ノ如シ

次ニ鉦及鼓ヲ擊ツ各三下

次ニ各退下

(注意)天皇襖襟ニ在ルトキハ皇太后皇太后ナキトキハ内親王又ハ親王妃奉抱シ高御座帳内ニ御シ

女官御帳外壇上西北隅ニ候ス皇太后ノ御服ハ皇后ニ同シ天皇未成年

ナルトキハ攝政(束帶)御帳外壇上東北隅ニ候シ内大臣ノ上班ニ就ク

又勅語ノ項ヲ攝政御帳ノ前面ニ參進勅語ヲ傳宣ストス

即位禮後一日賢所御神樂ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻文武高官有爵者優遇者竝夫人朝集所ニ參集ス

但シ服裝實所ニ期日奉告ノ儀ニ同シ

次ニ皇太子皇太子妃親王妃内親王妃女王宜陽殿ニ參入ス

次ニ天皇皇后宜陽殿ニ渡御以下天皇ニ御服、御手水、御笏、皇后ニ御服、御手水、御檜扇ヲ供シ及供奉諸員服

但シ供奉員中皇族女子ノ服

裝ハ五衣、小袷、長袴トス

御登極



次ニ大禮使高等官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候  
シ皇太子親王王内大臣大禮使長官供奉ス

次ニ皇后出御

式部次官皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ皇太子妃親王妃内親王王妃女王大禮使  
次官供奉ス

次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ案上ニ奉安ス

次ニ皇后内陣ノ御座ニ著御

次ニ天皇御拜禮御鈴内寮  
典奉仕

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃親王妃内親王王妃女王拜禮

次ニ御神樂

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

大嘗祭前一日鎮魂ノ儀

其ノ儀皇室祭祀令附式中新嘗祭前一日鎮魂ノ式ノ如シ

但シ大禮使高等官著床ス其ノ服裝ハ總テ齋田點定ノ儀ニ同シ

神宮皇靈殿神殿竝官國幣社ニ勅使發遣ノ儀

其ノ儀神宮神武天皇山陵竝前帝四代山陵ニ勅使發遣ノ式ニ準ス

但シ地方長官ニ勅使ヲ命セラレタル場合ニハ大禮使長官祭文竝幣物ヲ奉受シ各地

方廳ニ送致ス

大嘗祭當日神宮ニ奉幣ノ儀



其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

大嘗祭當日皇靈殿神殿ニ奉幣ノ儀

其ノ儀即位禮當日皇靈殿神殿ニ奉告ノ式ニ準ス

大嘗祭當日賢所大御饌供進ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻皇宮警部御殿ノ南門ヲ警固ス

次ニ大禮使高等官著床

次ニ御扉ヲ開ク

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ御鈴ノ儀アリ内等典奉仕

次ニ天皇御代拜侍從奉仕、束帶

次ニ皇后御代拜女官奉仕、五衣、唐衣、裳

次ニ諸員拜禮

式部職掌典部樂部職員中掌典長、掌典次長、掌典ハ束帶、樂官其ノ他ハ衣冠單

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

大嘗宮ノ儀

當日早旦大嘗宮ヲ裝飾ス

時刻外門ヲ開ク皇宮警部之ヲ警固ス

次ニ文武高官有爵者優遇者並夫人朝集所ニ參集ス

但シ服裝即位禮當日賢所大前ノ儀ニ同シ女子ハ袴袴ヲ以テ大禮服ニ代フ

次ニ皇太子皇太子妃親王妃親王妃内親王王妃女王頓宮ニ參著ス

次ニ天皇皇后頓宮ニ著御

時刻儀仗兵正門外ニ整列ス

次ニ大禮使高等官二十人南北兩面神門左右各三人東西兩面神門左右各二人外掖ニ參進衛門ノ本

位ニ就ク

但シ服裝束帶冠卷、纓、縹、袍、綑、腰、帶、單、劍、平、緒、平、胡、錄、箭、子、弓、淺、沓、小、忌、衣、ヲ、加、ヘ

日蔭蓋ヲ著ク



次ニ大禮使高等官左右各六人南面ノ神門内掖ニ參進威儀ノ本位ニ就ク

但シ服裝東帶冠卷細綵、袍(縫腋)、單、下、平結、胡錄箭ヲ、淺沓、小忌衣ヲ加ヘ日蔭蔓後列者ハ黒袍

次ニ悠紀主基兩殿ノ神座ヲ奉安ス

學典長、學典次長、學典及學典補ヲ率、之ヲ奉仕ス、東帶(纒著、勅任官、其ノ他ノ者ニ在リテハ、細袍)小忌衣、ヲ加ヘ日蔭蔓ヲ著ク、樂官亦同シ、

次ニ各殿ニ齋火ノ燈燎ヲ點ス

學典學典補ヲ率、井之ヲ奉仕ス、

此ノ時庭燎ヲ燒ク火炬、手服裝冠細綵、桃花染布衫、白布單、白布袴、白布帶、茶屋巾、麻鞋

悠紀殿供饌ノ儀

時刻天皇迴立殿ニ渡御

次ニ小忌御湯ヲ供ス

侍從、奉仕

次ニ御祭服

御成、年ナルトキハ之ヲ供セス、御齋衣、御

次ニ御手水ヲ供ス

上、同

次ニ御笏ヲ供ス

上、同

次ニ皇后廻立殿ニ渡御

女官、奉仕

次ニ御服ヲ供ス

女官、奉仕

次ニ御手水ヲ供ス

上、同

次ニ御檜扇ヲ供ス

上、同

此ノ間供奉諸員

皇太子妃、親王妃、內親王、王妃、女王、皇后、

次ニ大禮使高等官前導朝集所ニ參集ノ諸員南面ノ神門外ノ幄舎ニ參進本位ニ就ク

次ニ膳屋ニ稻舂歌ヲ發シ

樂官、奉仕、神饌ヲ調理ス、

次ニ本殿南庭ノ帳殿ニ庭積ノ机代物ヲ安ク

學典學典補ヲ率、井之ヲ奉仕ス、

次ニ掌典長本殿ニ參進祝詞ヲ奏ス

學典學典補ヲ率、

次ニ天皇本殿

迴立殿ヨリ悠紀殿ニ至ル廻廊下ノ御、路ニ布單ヲ鋪キ其ノ上ニ葉薦ヲ鋪クニ進御

式部長官宮内大臣前行シ

侍從左右各一人、脂燭ヲ秉ル

御綱ヲ張ル侍從長侍從武官長侍從武官御後ニ候シ皇太子親王王國務各大臣樞

密院議長內大臣大禮使長官供奉ス

此ノ時掌典長本殿南階ノ下ニ候シ式部官左右各一人脂燭ヲ秉リ南階ノ下ニ立ツ

次ニ侍從劍璽ヲ奉シ南階ヲ昇リ外陣ノ幌内ニ參進劍璽ヲ案上ニ奉安シ西面ノ幌外ニ退

下簀子ニ候ス

次ニ天皇外陣ノ御座ニ著御侍從長掌典長南階ヲ昇リ簀子ニ候ス

此ノ時皇太子親王王國務各大臣以下供奉諸員本殿南庭小忌ノ幄舎ニ著床ス



次ニ皇后本殿南庭ノ帳殿ニ進御

式部次官皇后宮大夫前行シ式部官左右各一人脂燭ヲ秉ル女官御後ニ候シ皇太子妃親王妃内親王王妃

次ニ皇后帳殿ノ御座ニ著御女官殿外ニ候ス

此ノ時皇太子妃親王妃内親王王妃女王其ノ他供奉諸員殿外小忌ノ幄舎ニ著床ス

次ニ大禮使高等官東帶(纁著)、帶劍、小忌、衣ヲ加ヘ日陰邊ヲ著ク樂官ヲ率キ本殿南庭ノ本位ニ就ク

次ニ悠紀ノ地方長官服裝大禮使高等官ニ同シ樂官ヲ率キ大禮使高等官ノ東方ノ本位ニ就ク

次ニ國栖ノ古風ヲ奏ス

次ニ悠紀地方ノ風俗歌ヲ奏ス

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃親王妃内親王王妃女王拜禮

次ニ諸員拜禮

次ニ皇后迴立殿ニ還御

供奉進御ノ時ノ如シ

次ニ皇太子親王王本殿ニ參進南階ヲ昇リ簀子ニ候ス

次ニ本殿南庭ノ廻廊ニ神饌ヲ行立ス

其ノ儀掌典補左右各一人脂燭ヲ秉リ掌典一人削木ヲ執ル同一人海老鱒鹽槽ヲ執リ同

一人多志良加ヲ執ル陪膳女官五衣、唐衣、裳、小忌衣ヲ一人御刀子宮ヲ執リ後取女官服裝一

人御巾子宮ヲ執ル女官白色帛掛衣、唐衣、紅切袴、青摺袴、一人神食薦ヲ執リ同一人御食薦ヲ

執ル同一人御箸宮ヲ執リ同一人御枚手宮ヲ執ル同一人御飯宮ヲ執リ同一人鮮物宮ヲ

執ル同一人干物宮ヲ執リ同一人御菓子宮ヲ執ル掌典一人鮑汁漬ヲ執リ同一人海藻汁

漬ヲ執ル掌典補二人空蓋ヲ執リ同一人御羹八足机ヲ昇ク同一人御酒八足机ヲ昇キ同

二人御粥八足机ヲ昇キ同一人御直會八足机ヲ昇ク

次ニ削木ヲ執レル掌典本殿南階ノ下ニ立チ警蹕ヲ稱フ

此ノ時神樂歌ヲ奏ス

次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御皇太子親王王侍從長帶劍ヲ掌典長外陣ノ幌内ニ參入奉侍ス

次ニ御手水ヲ供ス陪膳女官奉仕

次ニ御饌御親供

次ニ御拜禮御告文ヲ奏ス

次ニ御直會

次ニ神饌撤下陪膳女官奉仕

次ニ御手水ヲ供ス同上

次ニ神饌膳舎ニ退下

其ノ儀行立ノ時ノ如シ



次ニ迴立殿ニ還御

供奉進御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

(注意)天皇襟裾ニ在ルトキハ出御ナシ神饌ハ掌典長之ヲ供進シ供奉スヘキ  
諸員ハ直ニ小忌幄舎ニ著床ス

主基殿供饌ノ儀

其ノ儀悠紀殿供饌ノ式ノ如シ

即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀

當日早旦豐樂殿ヲ裝飾ス

其ノ儀本殿ノ北廂ニ錦軟障千年松山水ノ圖ヲ設ケ東北隅ニ悠紀地方風俗歌ノ屏風、西北隅ニ  
主基地方風俗歌ノ屏風ヲ立ツ母屋ノ四面ニ壁代ヲ作り之ヲ塞ケ其ノ中央ニ天皇ノ御  
座、平鋪東方ニ皇后ノ御座平鋪ヲ設ケ各御椅子竝御臺盤ヲ立ツ南東西三廂ノ周圍ニ青  
簾ヲ懸ケ之ヲ塞ケ其ノ内ニ諸員陪宴ノ第一座ヲ設ケ床子竝臺盤ヲ立ツ顯陽、承歡、  
觀德、明義各堂ノ後面ニ綵綾軟障ヲ設ケ前面ニ青簾ヲ懸ケ之ヲ塞ケ其ノ内ニ諸員陪  
宴ノ第二座ヲ分設シ床子竝臺盤ヲ立ツ南庭ノ中央ニ舞臺ヲ構ヘ其ノ東南隅ニ樂官ノ  
幄ヲ設ケ

時刻文武高官有爵者優遇者竝夫人及外國交際官竝夫人朝集所ニ參集ス

但シ服裝即位禮當日賢所大前ノ儀ニ同シ各地ニ於テ饗饌ヲ賜フヘキ者亦同シ

次ニ儀鸞、逢春、承秋、嘉樂、高陽ノ各門ヲ開ク皇宮警部之ヲ警固ス

次ニ大禮使高等官前導諸員殿上ノ廂又ハ顯陽、承歡、觀德、明義ノ各座座及各堂ニ參進ス  
座ノ區別ハ時ニ  
依テ定ムニ參進殿上參進者ハ逢春門ヨリ入り東階ヲ昇ル顯陽堂承歡堂參進  
中定ムニ參進者ハ嘉樂門ヨリ入り觀德堂明義堂參進者ハ高陽門ヨリ入ル各其ノ本位ニ就ク

次ニ式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ天皇御正裝出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ皇太子親王王内大臣大禮使長官供奉ス

次ニ皇后御大禮服出御

式部次官皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ皇太子妃親王妃内親王妃女王大禮使  
次官供奉ス

次ニ天皇御座ニ著御侍從劍璽ヲ案上ニ奉安ス

次ニ皇后御座ニ著御

次ニ供奉員各本位ニ就ク

次ニ勅語アリ

次ニ内閣總理大臣奉對ス

次ニ外國交際官首席者奉對ス



次ニ天皇皇后ニ白酒黒酒ヲ供ス侍從並女  
官奉仕

次ニ諸員ニ白酒黒酒ヲ賜フ

次ニ式部長官悠紀主基兩地方獻物ノ色目ヲ奏ス

此ノ時兩地方ノ獻物ヲ南榮ニ排列ス内舍人  
奉仕

次ニ天皇皇后ニ御膳並御酒ヲ供ス侍從並女  
官奉仕

次ニ諸員ニ膳並酒ヲ賜フ

次ニ久米舞ヲ奏ス

次ニ天皇皇后ニ御穀物ヲ益供ス侍從並女  
官奉仕

次ニ諸員ニ穀物ヲ益賜ス

次ニ悠紀主基兩地方ノ風俗舞ヲ奏ス

次ニ大歌及五節舞ヲ奏ス

次ニ天皇皇后ニ挿華ヲ供ス侍從並女  
官奉仕

次ニ諸員ニ挿華ヲ賜フ

次ニ天皇皇后入御

供奉警蹕出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

當日文武官有爵者優遇者並夫人ニシテ召サレザル者ニハ各其ノ所在地ニ於テ饗饌ヲ賜

フ但シ饗饌ヲ賜フヘキ者ノ範圍及其ノ場所ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム

(注意)天皇未成年ナルトキハ勅語ノ項ヲ「攝政御座ノ前面ニ參進シ東方ニ

侍立シ勅語ヲ傳宣ス」トス

即位禮及大嘗祭後大饗第二日ノ儀

當日何時文武高官有爵者優遇者並夫人及外國交際官並夫人二條離宮内ノ朝集所ニ參集

ス

但シ服裝大饗第一日ノ儀ニ同シ

次ニ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王王妃女王二條離宮ニ參著ス

次ニ天皇皇后二條離宮ニ行幸啓

次ニ大禮使高等官前導諸員正寢ニ參進本位ニ就ク

次ニ天皇御正  
裝皇后御大  
禮服出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官皇后宮大夫女官御後ニ候

シ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王王妃女王大禮使長官供奉ス

次ニ天皇皇后御座ニ著御

次ニ陪宴スヘキ供奉員本位ニ就ク

次ニ賜宴

此ノ間奏樂



次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

即位禮及大嘗祭後大饗夜宴ノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者並夫人及外國交際官並夫人二條離宮内ノ朝集所ニ參集ス

但シ服裝踐祚後朝見ノ儀ニ同シ

次ニ大禮使高等官前導諸員正寢ニ參進本位ニ就ク

次ニ天皇御正皇后御中出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從長侍從武官長侍從武官皇后宮大夫女官御後ニ候

シ皇太子皇太子妃親王妃内親王王妃女王大禮使長官供奉ス

次ニ舞樂萬歲樂太奏ス

次ニ賜宴

此ノ間奏樂

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

即位禮及大嘗祭後神宮ニ親謁ノ儀

當日何時頓宮出御

次ニ天皇板垣御門外ニ於テ御下乘

式部長官宮内大臣前行シ御前侍從劍璽ヲ奉シ御後侍從御菅蓋ヲ捧持シ御綱ヲ張リ

御笏宮ヲ奉ス侍從長侍從武官長侍從武官御後ニ候シ皇太子親王王内大臣大禮

使長官供奉ス衣冠單、但シ侍從武官長、侍從武官ハ正裝正服、以下天皇供奉員ノ服裝ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆本儀ニ同シ

次ニ皇后板垣御門外ニ於テ御下乘

皇后宮大夫前行シ式部官御菅蓋ヲ捧持シ御綱ヲ張リ女官御楯扇宮ヲ奉シ御後ニ候

ス皇太子妃親王妃内親王王妃女王大禮使次官供奉ス男子ハ衣冠單、女子ハ袿袴、以下皇后供奉員ノ服裝ニ付キ別ニ分注ヲ施ササル

モノハ皆本儀ニ同シ

次ニ外玉垣御門外ニ於テ天皇皇后ニ大麻御鹽ヲ奉ル神宮禰宜奉仕

次ニ内玉垣御門内ニ於テ天皇皇后ニ御手水ヲ供ス侍從並女官奉仕

此ノ時祭主大少宮司正殿ノ御扉ヲ開キ御幌ヲ牽ケ御供進ノ幣物ヲ殿内ノ案上ニ奉

安シ御階ノ下ニ候ス

次ニ天皇瑞垣御門内ニ進御

掌典長衣冠前行シ御前侍從劍璽ヲ奉シ御後侍從御菅蓋ヲ捧持シ御綱ヲ張リ御笏宮

ヲ奉ス侍從長御後ニ候ス供奉員中皇太子親王王ハ瑞垣御門外ニ候シ其ノ他ノ諸員

ハ内玉垣御門外ニ候ス



次ニ皇后瑞垣御門内ニ進御

掌典服裝掌典長長ニ同シ前行シ式部官御菅蓋ヲ捧持シ御綱ヲ張リ女官御檜扇筥ヲ奉シ御後ニ候ス供奉員中皇太子妃親王妃内親王妃女王ハ瑞垣御門外ニ候シ其ノ他ノ諸員ハ内玉垣御門外ニ候ス

次ニ天皇正殿ノ御階ヲ昇御大床ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ御階ノ下ニ候ス

次ニ皇后正殿ノ御階ヲ昇御大床ノ御座ニ著御

次ニ天皇御拜禮

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃親王妃内親王妃女王王妃女王拜禮

次ニ天皇皇后頓宮ニ還御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ各退下

(注意)天皇祚祿ニ在ルトキハ正殿御階ノ下マテ女官奉抱シ大床ノ御座ニ著御ノ時ハ皇太后皇太后ナキトキハ内親王又ハ親王妃奉抱御拜禮皇太后ノ御服ハ皇后ニ同シ以下ノ二儀之ニ倣フ

即位禮及大嘗祭後神武天皇山陵並前帝四代山陵ニ親謁ノ儀

當日早旦陵所ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官著床

但シ服裝京都ニ行幸ノ儀ニ於ケル賢所著床ノ時ノ如シ

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間奏樂

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇頓宮出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候シ皇太子親王妃内親王妃大臣大禮使長官供奉ス

次ニ皇后御五衣、御小袷、御袴頓宮出御

皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ皇太子妃親王妃内親王妃女王王妃大禮使次官供奉

ス

次ニ天皇御拜禮

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃親王妃内親王妃女王王妃女王拜禮

次ニ天皇皇后頓宮ニ還御

供奉出御ノ時ノ如シ



次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間奏樂

次ニ各退下

東京ニ還幸ノ儀

其ノ儀京都ニ行幸ノ式ニ準ス

賢所溫明殿ニ還御ノ儀

其ノ儀賢所春與殿ニ渡御ノ式ノ如シ

東京還幸後賢所御神樂ノ儀

其ノ儀皇室祭祀令附式中賢所御神樂ノ式ノ如シ

但シ皇太子皇太子妃ニ關スル儀注ヲ除キ式部職掌典部樂部職員ノ服裝大禮使高等

官ノ著床及天皇后ノ供奉員ハ即位禮後一日賢所御神樂ノ式ニ依ル

還幸後皇靈殿神殿ニ親謁ノ儀

當日早日御殿ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官著床

但シ服裝大禮服正裝正服關係諸員式部職掌典部職員ヲ除ク中男子亦同シ女子ハ通常服樂部職員ハ布衣單

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從御劍ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ皇太子親王王内大臣大禮使長官供奉ス

次ニ皇后御服賢所ニ期日奉告ノ儀ニ同シ出御

皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ皇太子妃親王妃内親王王妃女王大禮使次官供奉

ス

次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從御劍ヲ奉シ簀子ニ候ス

次ニ皇后内陣ノ御座ニ著御

次ニ天皇御拜禮

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃親王妃内親王王妃女王拜禮

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ



次ニ諸員拜禮  
 次ニ幣物神饌ヲ撤ス  
 此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
 次ニ御扉ヲ閉ツ  
 此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
 次ニ各退下

(參考)

明治四年十一月  
神祇省告諭

大嘗會ニ付先般太政官御布告有之候處左之通重キ御趣意ニ付此旨地方末々ニ迄無洩  
 深切可申諭候事

告諭

大嘗會之儀ハ天孫瓊々杵尊降臨ノ時天祖天照大神御神詔シテ豊葦原瑞穗國ハ吾御子ノ  
 所知國ト封シ玉ヒ乃齋庭ノ穗ヲ授ケ玉ヒシヨリ天孫日向高千穗宮ニ天降マシク始テ  
 其稻種ヲ播テ新穀ヲ聞食ス是レ大嘗新嘗ノ起原也是ヨリ御歷代年々ノ新嘗祭アリ殊ニ  
 御即位繼體ノ初ニ於テ大嘗ノ大義ヲ行ヒ玉フハ新帝更ニ斯國ヲ所知食シ天祖ノ封ヲ  
 受玉フ所以ノ御大禮ニシテ國家第一ノ重事タリ其義本月卯日宸儀添ク天祖天神地祇ヲ  
 饗祀マシク辰日御高座ニ御シテ新穀ノ饗饌ヲ聞食シ即酒饌ヲ百官群臣ニ賜フ是ヲ豊  
 明節會ト云フ夫穀ハ天祖ノ授與シ玉フ所生靈億兆ノ命ヲ保ツ所ノモノニシテ天皇斯生  
 民ヲ鞠育シ以テ其恩頼ヲ報シ天職ヲ奉シ玉フ一斯ノ如シ然則此大嘗會ニ於ケルヤ天下  
 萬民謹テ御趣旨ヲ奉戴シ當日人民休業各其地方産土神ヲ參拜シ天祖ノ德澤ヲ仰キ隆盛  
 ノ洪福ヲ祝セスハアルハカラサル也

攝政

○攝政令

明治四十二年二月十一日  
皇室令 第二二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ攝政令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

攝政令

第一條 攝政就任スル時ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所ニ祭典ヲ行ヒ且就任ノ旨ヲ皇靈  
 殿神殿ニ奉告ス  
 第二條 攝政ヲ置キタルトキ又ハ攝政ノ更迭アリタルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

御登極 攝政



第三條 攝政ヲ置ク間御名ヲ要スル公文ハ攝政御名ヲ書シ且其ノ名ヲ署スルノ外天皇

大政ヲ親ラスルトキト形式ヲ異ニスルコトナシ

第四條 攝政ハ其ノ任ニ在ル間刑事ノ訴追ヲ受クルコトナシ

第五條 攝政止ミテ天皇大政ヲ親ラスルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

附式

實所ノ儀

當日何時文武高官有爵者優遇者朝集所ニ參集ス召スヘキ者ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム

但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ通常服關係諸員式部員ヲ除ク亦同シ

時刻親王女子攝政トナリタル場合ニハ内親王女王綾綺殿ニ參入ス

次ニ攝政綾綺殿ニ參入ス東帶、皇太子皇太孫攝政トナリタル場合ニハ黃丹袍トシ親王王ノ場合ニハ時ニ臨ミ衣冠單ヲ小鞋、長袴ヲ以テ唐衣、ヲ供ス奉仕者ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム

次ニ攝政ニ儀服東帶、皇太子皇太孫攝政トナリタル場合ニハ黃丹袍トシ親王王ノ場合ニハ時ニ臨ミ衣冠單ヲ小鞋、長袴ヲ以テ唐衣、ヲ供ス奉仕者ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム

次ニ攝政ニ手水ヲ供ス同上

次ニ攝政ニ笏女子攝政トナリタル場合ニハ櫛扇ヲ供ス同上

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物色目時ニ臨ミ之ヲ定ムヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ攝政殿内皇太子皇太孫又ハ皇后皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ外陣トスニ參進皇太子皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

夫前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大

前行シ其ノ皇族附武官後ニ候ス皇太后皇太孫攝政トナリタル場合ニハ式部長官東宮大



其ノ儀賢所ノ式ノ如シ

### 御立儲

#### ○立儲令

明治四十二年二月十一日  
皇室令第三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ立儲令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 立儲令

- 第一條 皇太子ヲ立ツルノ禮ハ勅旨ニ由リ之ヲ行フ
- 第二條 立太子ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス
- 第三條 立太子ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮神武天皇山陵竝先帝ノ山陵ニ奉幣セシム
- 第四條 立太子ノ禮ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ
- 第五條 立太子ノ詔書ハ其ノ禮ヲ行フ當日之ヲ公布ス
- 第六條 立太子ノ禮訖リタルトキハ皇太子皇太子妃ト共ニ賢所皇靈殿神殿ニ謁ス
- 第七條 立太子ノ禮訖リタルトキハ皇太子皇太子妃ト共ニ天皇皇后太皇太后皇太后ニ

朝見ス

- 第八條 立太子ノ禮訖リタルトキハ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ
- 第九條 前各條ノ規定ハ皇太孫ヲ立ツルノ禮ニ之ヲ準用ス

附式

立太子ノ式立太孫ノ式ニ準ス

賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻宮内高等官著床

但シ服裝大禮服關係諸員式部職掌典部樂部職員ヲ除ク亦同シ

次ニ御屏ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌色目時ニ臨ミ之ヲ定ム、以下神饌又ハ幣物ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇御代拜侍從奉仕、衣冠單

次ニ皇后御代拜女官奉仕、袿袴

次ニ諸員拜禮

御立儲



次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

神宮ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ奉幣ノ儀

以上其ノ儀皇室祭祀令附式中各其ノ式ノ如シ

神宮ニ奉幣ノ儀

其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

實所大前ノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者竝夫人及外國交際官竝夫人朝集所ニ參集ス召スヘキ者ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム

但シ服裝男子ハ大禮服白下衣袴正裝正服服制ナキ者ハ通常禮服女子ハ大禮服關係諸員

式部職掌典部樂部職員ヲ除ク亦同シ

次ニ皇太子皇太子妃綾綺殿ニ參入ス

次ニ天皇皇后綾綺殿ニ渡御

次ニ天皇ニ御服御東帶御衣ヲ供ス侍從

次ニ天皇ニ御手水ヲ供ス同上

次ニ天皇ニ御笏ヲ供ス同上

次ニ皇后ニ御服御五表、御唐衣、御裳ヲ供ス女官奉仕

次ニ皇后ニ御手水ヲ供ス同上

次ニ皇后ニ御檜扇ヲ供ス同上

次ニ皇太子ニ儀服東帶黃丹袍、未成年ナルトキハ關腋袍、空頂黑幘ヲ供ス東宮侍從奉仕

次ニ皇太子ニ手水ヲ供ス同上

次ニ皇太子ニ笏ヲ供ス同上

次ニ皇太子妃ニ儀服五表、唐衣、裳ヲ供ス女官奉仕

次ニ皇太子妃ニ手水ヲ供ス同上

次ニ皇太子妃ニ檜扇ヲ供ス同上

此ノ間供奉諸員宮内大臣、侍從長、式部長官、侍從、皇后宮大夫、東宮大夫、東宮侍從長、東宮侍從、東宮主事、女官服裝ヲ易フ男子ハ衣冠單、女子ハ衣冠單、

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス



此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ天皇出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候  
シ親王王供奉ス

次ニ皇后出御

皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ親王妃内親王王妃女王供奉ス

次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ外陣御座ノ傍ニ奉安シ簀子ニ候ス

次ニ皇后内陣ノ御座ニ著御女官簀子ニ候ス

次ニ天皇御拜禮御告文ヲ奏ス御給内掌  
典奉仕

次ニ皇后御拜禮

次ニ天皇皇后外陣ノ御座ニ移御

次ニ皇太子外陣ニ參入シ内陣ニ向テ拜禮シ御前ニ參進ス

東宮大夫前行シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官後ニ候ス

次ニ皇太子妃外陣ニ參入シ内陣ニ向テ拜禮シ皇太子ノ掖座ニ著ク

東宮主事前行シ女官後ニ候ス

次ニ侍從長壺切御劍ヲ御前ニ奉ル

次ニ勅語アリ壺切御劍ヲ皇太子ニ授ク

次ニ皇太子壺切御劍ヲ奉シ東宮侍從  
從捧持皇太子妃ト共ニ簀子ニ候ス

次ニ親王妃内親王王妃女王拜禮

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ皇太子皇太子妃退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

(注意)皇太子襦袢ニ在ルトキハ女官之ヲ抱ク以下之ニ倣フ

賢所皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀賢所大前ノ儀ニ  
檢テ之ヲ行フ

時刻御扉ヲ開ク

御立儀



此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ皇太子内陣ニ參進

式部長官東宮大夫前行シ東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長

東宮武官後ニ候ス

次ニ皇太子妃内陣ニ參進

東宮主事前行シ女官後ニ候ス

次ニ皇太子著座東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ皇太子妃著座女官外陣ニ候ス

次ニ皇太子皇太子妃拜禮訖テ退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

參内朝見ノ儀

時刻皇太子正裝皇太子妃大禮服參内

但シ關係諸員服裝男子ハ大禮服正裝正服女子ハ大禮服以下服裝ニ付キ別ニ但書ヲ註カサルモノハ本儀ニ同シ

次ニ皇太子皇太子妃便殿ニ參入ス

次ニ天皇御正裝皇后御大禮服正殿ニ出御

次ニ式部長官前導皇太子皇太子妃御前ニ參進恩ヲ謝ス

次ニ勅語アリ

次ニ皇后懿旨アリ

次ニ皇太子皇太子妃御掖座ニ著ク

次ニ御臺盤ヲ立ツ

次ニ御饌御酒ヲ供ス

次ニ天皇皇后御盃ヲ皇太子皇太子妃ニ賜フ

次ニ御箸ヲ立ツ

次ニ侍從長御祿ヲ皇太子皇太子妃ニ傳進ス

次ニ女官御祿ヲ皇太子皇太子妃ニ傳進ス

次ニ皇太子皇太子妃拜謝ス



次ニ天皇皇后入御

皇太后ニ朝見ノ儀大皇太后ニ朝見ノ儀之ニ準ス

時刻皇太子正皇太子妃大禮皇太后ノ本宮ニ行啓

次ニ皇太后御大禮正殿ニ出御

次ニ式部長官前導皇太子皇太子妃御前ニ參進恩ヲ謝ス

次ニ懿旨アリ

次ニ女官御祿ヲ皇太子皇太子妃ニ傳進ス

次ニ皇太子皇太子妃拜謝ス

次ニ后太皇入御

次ニ皇太子皇太子妃退下

宮中饗宴ノ儀

其ノ儀時ニ臨ミ之ヲ定ム

### 御成年式

#### ○皇室成年式令

明治四十二年二月十一日  
皇室令 第四號

朕皇室成年式令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
皇室成年式令

#### 第一章 天皇成年式

第一條 天皇成年ニ達シタルトキハ其ノ當日成年式ヲ行フ但シ事故アルトキハ其ノ期日ヲ延フルコトアルヘシ

第二條 天皇成年式ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三條 天皇成年式ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ勅使ヲシテ神宮神武天皇

山陵竝先帝先后ノ山陵ニ奉幣セシム

第四條 天皇ノ成年式ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ

第五條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ皇靈殿神殿ニ謁ス

第六條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ太皇太后皇太后ニ謁ス

第七條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ正殿ニ御シ朝賀ヲ受ク

第八條 天皇成年式ヲ訖リタルトキハ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ

#### 第二章 皇族成年式

第九條 皇太子皇太孫親王王成年ニ達シタルトキハ其ノ當日附式ノ定ムル所ニ依リ賢所大前ニ於テ成年式ヲ行フ但シ事故アルトキハ勅許ヲ經テ其ノ期日ヲ延フルコトヲ得



第十條 皇太子皇太孫成年式ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告ス

第十一條 皇太子皇太孫親王王成年式ヲ訖リタルトキハ天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス

第十二條 皇太子皇太孫ノ成年式ニハ第二條第五條及第八條ノ規定ヲ準用シ親王王ノ成年式ニハ第五條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 親王王成年式ヲ訖リタルトキハ其ノ當日宮内大臣之ヲ公告ス  
附式

第一編 天皇成年式

賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

當日早且御殿ヲ裝飾ス  
時刻宮内高等官著床

但シ服裝大禮服關係諸員式部職掌典部樂部職員ヲ除ク亦同シ以下著床ノ項ニ於テ別ニ但書ヲ置カサルモノハ皆本儀ニ同シ

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌色目時ニ臨ミ之ヲ定ム、以下神饌又ハ幣物ニテ供ス付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
次ニ堂典長祝詞ヲ奏ス

次ニ御代拜侍從奉仕、衣冠單

次ニ諸員拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

神宮ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ勅使發遣ノ儀

山陵ニ奉幣ノ儀

以上其ノ儀皇室祭祀令附式中各其ノ式ノ如シ

神宮ニ奉幣ノ儀

其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

賢所大前ノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者及外國交際官朝集所ニ參集ス召スヘキ者ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム、以下別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フ

但シ服裝大禮服白下衣袴正裝正服用制ナキ者ハ通常禮服女子ハ大禮服關係諸員式部職掌典部樂部職員ヲ除ク亦同シ以下參集ノ項ニ於テ別ニ但書ヲ置カサルモノハ皆本儀ニ同シ

御成年式



次ニ天皇綾綺殿ニ渡御

是ヨリ先キ前攝政參入ス

次ニ御服綸服御袍、空頂御黒幟ヲ供ス侍從奉仕

次ニ御手水ヲ供ス同上

次ニ御笏ヲ供ス同上

此ノ間供奉諸員前攝政、前太傅、宮内大臣、侍從長、式部長官、侍從、服裝ヲ易フ衣冠

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ前攝政親王王前太傅供奉ス前攝政女子ナルトキハ供奉ノ列ニ加ハラス皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀之ニ倣フ

次ニ外陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ簀子ニ候ス

次ニ前攝政事故アルトキハ他ノ皇族男御冠先帝ノ御ヲ加フ女子ナルトキハ前太傅御冠物ヲ用カヲ加フ

次ニ内陣ノ御座ニ進御侍從劍璽ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ御拜禮御告文ヲ奏ス御給内掌典奉仕

次ニ外陣ノ御座ニ移御侍從劍璽ヲ奉シ簀子ニ候ス

次ニ掌典長神盃ヲ天皇ニ獻シ御瓶子ヲ執ル天皇神盃ヲ掌典長ニ授ク

次ニ御拜禮

次ニ前攝政親王王前太傅拜禮

次ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀寶所大前ノ儀ニ續テ之ヲ行フ

時刻御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス



次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ出御御袍縫  
腋トス

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ前攝政親王王前太傅供奉ス

次ニ内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ御拜禮訖テ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

皇太后ニ謁スルノ儀皇太后ニ謁ス  
ルノ儀之ニ準ス

時刻天皇御正皇太后ノ本宮ニ行幸

但シ關係諸員服裝男子ハ大禮服白下正裝正裝正服女子ハ大禮服

次ニ皇太后御大禮服正殿ノ廂ニ於テ迎フ

次ニ式部長官前導正殿ノ御座ニ著御

次ニ天皇御拜謁皇太后御答拜

次ニ還幸皇太后正殿ノ廂ニ於テ送ル

天皇朝賀ヲ受クルノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者及外國交際官朝集所ニ參集ス

次ニ式部官前導諸員正殿ニ參進本位ニ就ク

次ニ式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ出御御正裝

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ親王王供奉ス

次ニ内閣總理大臣壽詞ヲ奏ス

次ニ勅答アリ

次ニ諸員萬歲ヲ稱フ

次ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下



宮中饗宴ノ儀

其ノ儀時ニ臨ミ之ヲ定ム

第二編 皇太子成年式皇太孫成年式之ニ準ス

賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻宮内高等官著床

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ皇太子代拜東宮侍從奉仕、衣冠單

次ニ諸員拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

賢所大前ノ儀

時刻文武高官有爵者優遇者及外國交際官朝集所ニ參集ス

次ニ皇太子綾綺殿ニ參入ス

次ニ天皇綾綺殿ニ渡御

次ニ天皇ニ御服御東帶黃襦袢、御衣、御袴、御履ヲ供ス侍從奉仕

次ニ天皇ニ御手水ヲ供ス同上

次ニ天皇ニ御笏ヲ供ス同上

次ニ皇太子ニ儀服網腋袍、空頂黑幘ヲ供ス東宮侍從奉仕

次ニ皇太子ニ手水ヲ供ス同上

次ニ皇太子ニ笏ヲ供ス同上

此ノ間供奉諸員宮内大臣、侍從長、式部長官、侍從、東宮大夫、東宮侍從長、東宮侍從服裝ヲ易フ衣冠單

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス



次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス  
次ニ出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候  
シ親王王供奉ス

次ニ外陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ簀子ニ候ス  
次ニ皇太子參進

東宮大夫前行シ東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官  
後ニ候ス

次ニ天皇冠ヲ皇太子ニ授ク掌典長 捧持皇太子外陣ノ座ニ著ク東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ簀子  
ニ候ス

次ニ掌典長賜冠ヲ皇太子ニ加フ  
次ニ天皇内陣ノ御座ニ進御

次ニ御拜禮訖テ入御  
供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ皇太子内陣ニ參進  
次ニ皇太子拜禮告文ヲ奏ス  
次ニ皇太子退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス  
此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ  
此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
次ニ各退下

皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀寶所大前ノ儀ニ  
續テ之ヲ行フ  
時刻御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ皇太子參進袍縫服トス  
東宮大夫前行シ東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官  
後ニ候ス

次ニ皇太子内陣ノ座ニ著ク東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ外陣ニ候ス



次ニ皇太子拜禮訖テ退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

參内朝見ノ儀

時刻皇太子正裝參内

但シ關係諸員服裝男子ハ大禮服正裝正服女子ハ大禮服以下行啓ノ項ニ於テ別ニ但書ヲ置カサルモノハ本儀ニ同シ

次ニ皇太子便殿ニ參入ス

次ニ天皇御正裝皇后御大禮服正殿ニ出御

次ニ式部長官前導皇太子御前ニ參進恩ヲ謝ス

次ニ勅語アリ

次ニ皇后懿旨アリ

次ニ皇太子御掖座ニ著ク

次ニ御臺盤ヲ立ツ

次ニ御饌御酒ヲ供ス

次ニ天皇皇后御盃ヲ皇太子ニ賜フ

次ニ御箸ヲ立ツ

次ニ天皇皇后入御

次ニ皇太子退下

皇太后ニ朝見ノ儀太皇太后ニ朝見ノ儀之ニ準ス

時刻皇太子正裝皇太后ノ本宮ニ行啓

次ニ皇太后御大禮服正殿ニ出御

次ニ式部長官前導皇太子御前ニ參進恩ヲ謝ス

次ニ懿旨アリ

次ニ皇太子退下

宮中饗宴ノ儀

其ノ儀時ニ臨ミ之ヲ定ム

第三編 親王成年式王成年式之ニ準ス

冠ヲ賜フノ儀

當日又ハ前日時刻勅使旨ヲ奉シテ親王ノ邸ニ至ル

但シ服裝勅使及關係諸員小禮服

御成年式



次ニ親王正寢ノ座ニ著ク  
次ニ勅使冠ヲ賜フ旨ヲ宣ヘ之ヲ親王ニ授ク  
次ニ親王奉答ス  
次ニ勅使退出

賢所大前ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻宮内勅任官總代各一人附屬別當家令著床

次ニ親王綾綺殿ニ參入ス

次ニ儀服胸腋袍、空頂黒幘ヲ供ス學典奉仕

次ニ手水ヲ供ス同上

次ニ笏ヲ供ス同上

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ學典長祝詞ヲ奏ス

次ニ親王外陣ニ參進著座

次ニ學典長賜冠ヲ親王ニ加フ

次ニ親王拜禮告文ヲ奏ス

次ニ親王退下

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀賢所大前ノ儀ニ續テ之ヲ行フ

時刻御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ學典長祝詞ヲ奏ス

次ニ親王外陣ニ參進袍縫殿著座



次ニ親王拜禮訖テ退下  
次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
次ニ御屏ヲ閉ッ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス  
次ニ各退下

參内朝見ノ儀

皇太后ニ朝見ノ儀皇太后ニ朝見ノ儀之ニ準ス

以上其ノ儀第二編中各其ノ式ニ準ス

### 御服

#### ○御服竝御馬具制

明治十三年十月十一日  
太政官達第五十五號

御服竝御馬具制別冊ノ通御改定本年天長節ヨリ服御被遊候條此旨相達候事  
〔官〕省院〔使〕府縣

(別冊略ス)

#### ○夏御服制

明治十四年八月二十二日  
太政官達第七十四號

夏御服別紙ノ通御定相成候條此旨相達候事  
〔官〕省院〔使〕廳府縣

(別紙略ス)

### 御旗

#### ○天皇旗皇后旗皇太子旗親王旗制

明治二十二年九月三十日  
宮内省達第十七號

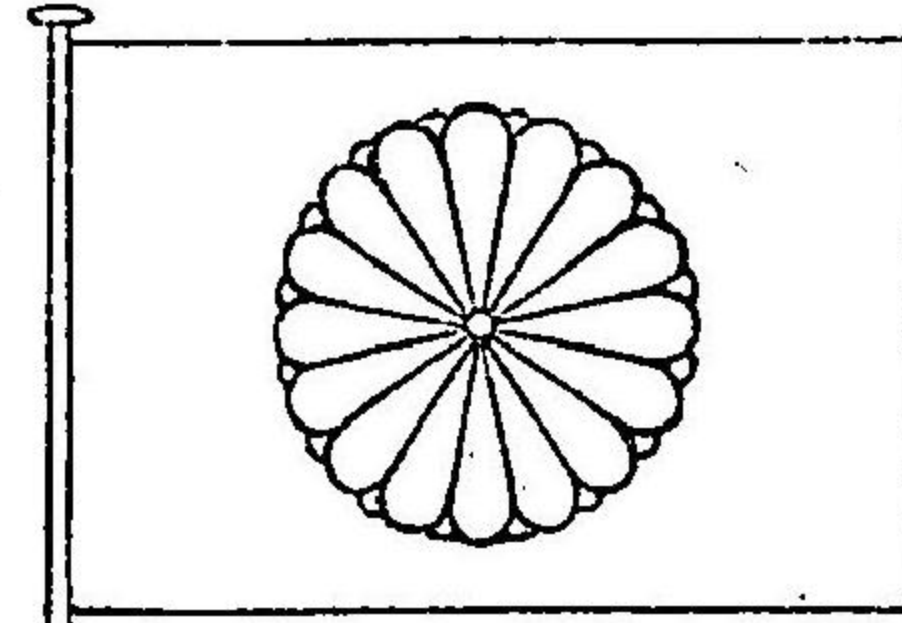
天皇旗皇后旗皇太子旗親王旗左ノ通制定ス

御服 御旗



御旗

天皇旗

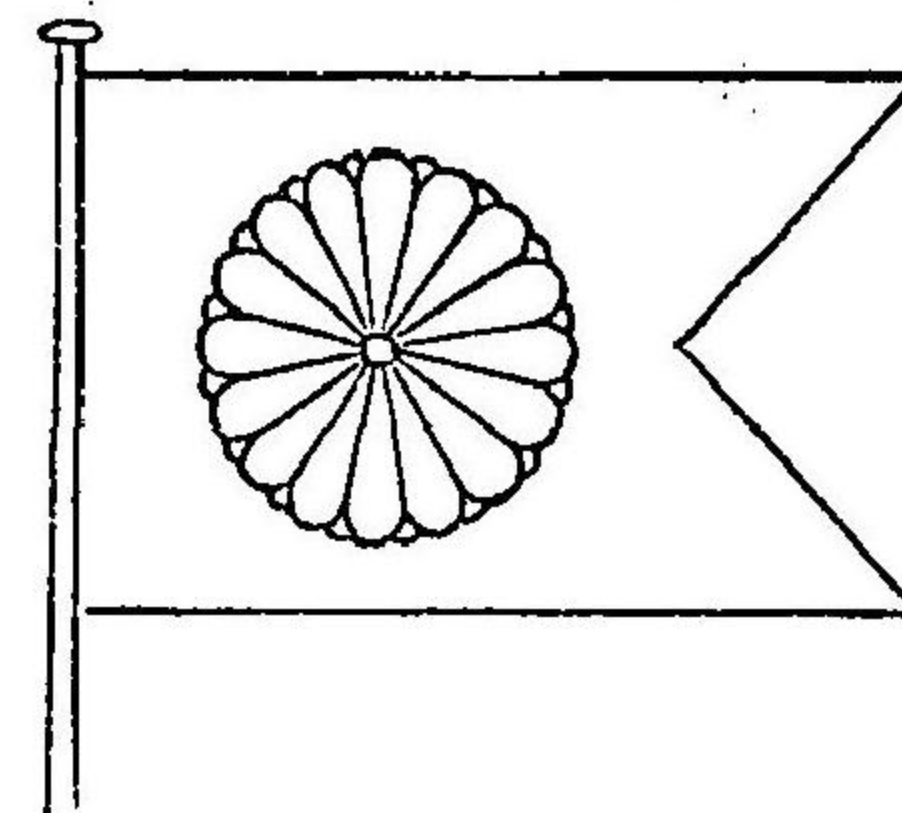


地色 菊章 横 菊心 菊心徑 菊全徑

紅 金 縦 分 旗面ノ中心 一ノ二 縦ノ六分四

皇后旗

大皇太后 皇太后ノ旗亦同シ

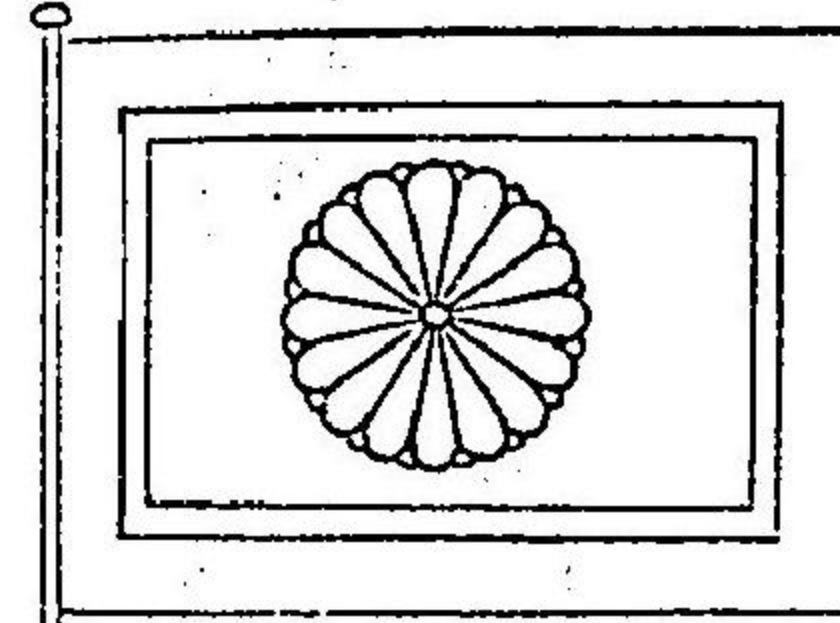


地色 菊章 横 燕尾開 裂 菊心 菊心徑 菊全徑

紅 金 縦 分 旗面ノ中心 一ノ二 縦ノ六分四

皇太子旗

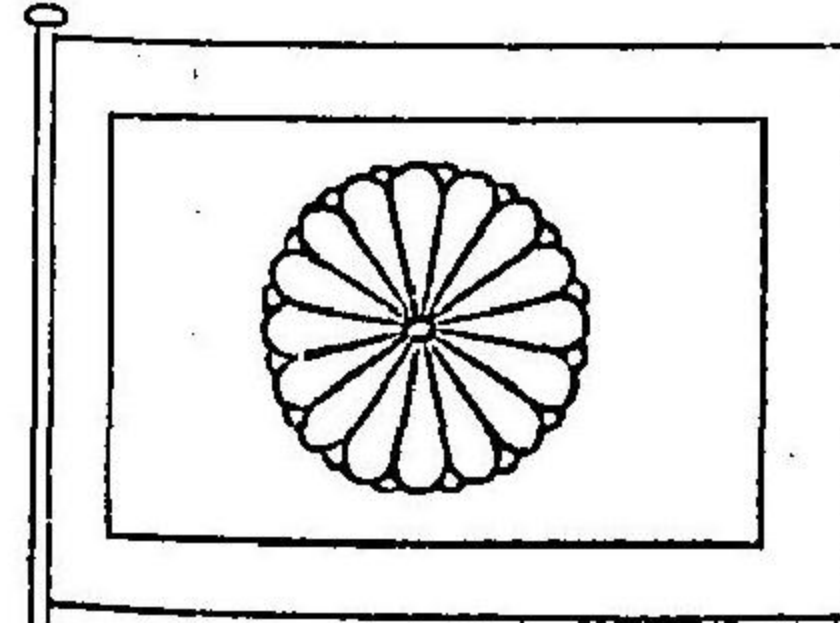
皇太子妃ノ旗亦同シ



地色 菊章 横 菊心 菊心徑 菊全徑 紅 白 縦 分 旗面ノ中心 一ノ二 縦ノ六分四

親王旗

内親王親王妃ノ旗亦同シ



地色 菊章 横 菊心 菊心徑 菊全徑 紅 白 縦 分 旗面ノ中心 一ノ二 縦ノ六分四

### 行幸 行啓

○臨時行幸心得方

明治四年八月十七日 太政官布告

離宮其外御騎馬並馬車等御輕裝ニテ臨時 行幸被爲遊候條爲心得此段相達候事 但御道筋市中平常ノ通タルヘキ事

○臨時行幸ノ節ハ天皇旗ヲ前驅ニ掲ク

明治四年九月十五日 太政官布告

臨時 行幸ノ節前驅ニ左ノ天皇旗ヲ相掲候條爲心得相達候事 (圖式改正ニ付略ス)

○皇太后皇后行啓ノ節皇后旗掲揚並御道筋 通行者敬禮方

明治六年四月十四日 太政官布告第百三十四號

皇太后宮 皇后宮行啓ノ節御馬車ハ(別紙ノ旗章)ヲ掲ケ候條其道筋通行ノモノ禮式ハ

行幸 行啓



行幸同様可相心得候事

(別紙圖式改正ニ付略ス)

明治十年七月六日 改正 二二年第一八號  
宮内省布達

皇太后宮皇后宮 行啓之節 御馬車へ旗章ヲ掲候旨明治六年第三百二十四號ヲ以テ公布  
相成居候處前驅騎兵ニテ右皇后旗相掲候條爲心得此旨布達候事

○行幸御途中直訴建言禁止諭達方

明治九年二月八日  
太政官達第十三號

〔使〕府縣

近來 行幸ノ節御途中ニ於テ突然儀仗内ニ衝入シ訴狀建言書ノ類差出候者往々有之右  
ハ國律ニモ明載有之儀ニテ甚以不相濟次第ニ候得共小民共情事切迫ノ餘リ心得違ニ依  
リ終ニ罪科ニ相觸レ候様ニテハ愍然ノ至ニ候條向後右様心得違ノ者無之様諭達可致此  
旨相達候事  
但訴願建言等規則ニ依リ其筋へ差出候ハ、取上ケ可相成旨ヲモ是又懇諭可及置事

皇族

○皇族列次

明治二十二年二月十一日  
宮内省達第二號

皇族列次ハ實系ノ遠近ニ從ヒ 皇位繼承ノ順序ニ依ル但シ親王叙品宣下アリシ者ニ限  
リ特殊ノ席次ヲ以テシ一般ノ列次左ノ通定ム

- 〔熾仁親王〕
- 〔晃親王〕
- 〔彰仁親王〕
- 貞愛親王
- 〔朝彥親王〕
- 〔能久親王〕
- 威仁親王
- 載仁親王
- 依仁親王
- 〔栽仁王〕



皇族

110

邦芳王  
博恭王

〔菊麿王〕

成久王

恒久王

輝久王

邦憲王

邦彥王

守正王

多嘉王

鳩彥王

稔彥王

### ○皇族華族取扱規則

明治四年十月十九日  
史官達

改正 一八年太政官布告第六九號

一 皇族在官タリトモ職務關係ノ外ハ皇族ヲ以可取扱事  
一〔華族ノ輩自今六等官相當取扱ノ事〕

一 華族在官ノ職務關係ノ外ハ官族ノ内重ニ從ヒ取扱事  
右之通御決定相成候間爲御心得申入候也

### ○親王署名式

明治十二年一月十七日  
太政官達 第二號

〔官〕省院〔使〕府縣

明治十年七月第五十三號達親王署名式左ノ通被改候條此旨相達候事

正式宣旨辭令奏狀  
等ノ類ニ用フ

官〔品〕、勳、名、親王諸王ハ名ノ下ニ王ト  
署ス略式モ亦同シ

略式官衙照會書等  
ノ類ニ用フ

官、名、親王

### ○皇族大禮服制

明治九年十月十二日  
太政官布告第百二十五號

明治六年二月第六十四號布告皇族大禮服制別冊圖式ノ通改正候條此旨布告候事  
(別冊略ス)

### ○皇族大禮佩劍制

皇族

一一一



明治七年十月二十七日  
太政官布告第百十四號

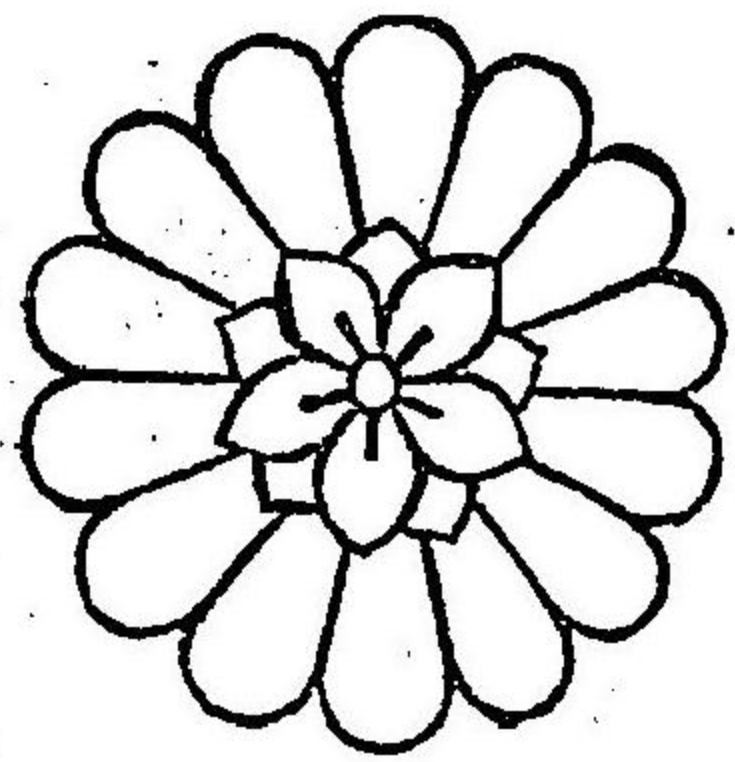
皇族大禮佩劍制別冊圖式ノ通被相定候條此旨布告候事  
(別冊略ス)

○皇族家紋章ノ制

明治四年六月十七日  
太政官布告

皇族家紋雛形ノ通被定候事  
(雛形)

菊裏重一葉四十



○親王提灯徽章

明治三年十一月十七日  
太政官布告

前日御定ニ相成候親王提灯印今般左之通被改候事  
(雛形略ス)

○皇族會議令

明治四十年二月二十八日  
皇室令第一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇族會議令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

皇族會議令

第一條 皇族會議ハ勅命ヲ以テ之ヲ召集ス

第二條 皇族會議ハ皇室典範第十九條第二項ノ場合ニ於テハ攝政タルヘキ順位ニ在ル

成年皇族男子之ヲ召集ス

第三條 皇族會議ハ皇室典範第二十五條ノ場合ニ於テハ次ニ攝政タルヘキ順位ニ在ル

成年皇族男子之ヲ召集ス

第四條 前二條ノ場合ニ於テ皇族會議ノ召集ハ成年皇族男子三分ノ一以上又ハ樞密顧問ノ請求ニ依リ之ヲ行フ



- 第五條 皇族會議ハ皇室典範第九條第六十二條ノ場合ニ於テハ皇族會議員三分ノ二以上其ノ他ノ場合ニ於テハ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 皇族會議ハ皇室典範第十九條第二項第二十五條ノ場合ニ於テハ會議ヲ召集シタル皇族ヲ以テ議長トス但シ會議ヲ召集シタル皇族出席セサルトキハ出席者中上席者ヲ以テ議長トス
- 第七條 皇室典範第五十五條ニ依リ皇族會議ニ參列スル者ハ議事ニ就キ意見ヲ陳述スルコトヲ得ルモ表決ノ數ニ加ハラズ
- 第八條 皇族會議ノ議事ハ皇室典範第九條第六十二條ノ場合ニ於テハ出席者三分ノ二以上ノ多數ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ過半數ニ依リ之ヲ決ス
- 第九條 皇族會議員ハ自己ノ利害ニ關係スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス前項利害關係ノ有無ニ付キ疑議アルトキハ皇族會議之ヲ決ス
- 第十條 皇族會議ノ議決ハ天皇議事ヲ統理セラレサルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏スヘシ
- 第十一條 皇室典範第十九條第二項第二十五條ノ場合ニ於テ皇族會議ノ議決アリタルトキハ皇族會議ノ議長ハ宮内大臣ヲシテ之ヲ樞密院議長ニ通報セシム
- 樞密顧問ノ請求ニ依リ皇族會議ヲ召集シタル場合ニ於テ其ノ議決樞密顧問ノ議決ト一致シタルトキハ皇族會議ノ議長ハ宮内大臣ヲシテ之ヲ内閣總理大臣ニ通報セシム
- 第十二條 皇族會議ノ議ニ付セラレタル議案ニ就テハ宮内大臣ヲシテ説明ノ任ニ當ラ

シム但シ必要ノ場合ニ於テハ特ニ説明委員ヲ勅選セララルコトアルヘシ

第十三條 皇族會議ニ關スル事務ハ宮内大臣之ヲ管掌ス

皇族會議ノ議事ハ宮内高等官ヲシテ筆記セシメ宮内大臣之ニ署名ス

第十四條 皇族會議ノ記録ハ圖書寮ニ於テ之ヲ尙藏ス

御料

○江戸城ヲ皇居ト定ム

明治元年十月十三日  
行政官 御沙汰

御東臨之節ハ當城ヲ以テ 皇居ト被定候ニ付以來〔東京城〕ト可稱事  
但過日被 仰出候 行宮之稱被止候事

明治元年十二月七日  
行政官 御沙汰

先般被 仰出候通來春再 御臨幸被爲遊候ニ付〔舊本丸城蹟〕ニ宮殿御造營被 仰出候事

明治七年十二月二十三日  
太政官達第百七十號



皇城内へ 宮殿御再營並ニ舊本城ニ諸官省建築被 仰出候條此旨相達候事  
院省〔使〕廳府縣

○皇居ヲ宮城ト稱ス

明治二十一年十月二十七日  
宮内省告示第六號

皇居御造營落成ニ付自今宮城ト稱セラル

○濱殿石室ヲ延遼館ト號ス

明治二年七月九日  
太政官達

濱殿石室ヲ延遼館ト號シ候様被 仰出候事

○離宮設置

明治五年三月二十三日  
太政官布告第九十一號

今般赤坂ニ離宮ヲ被置候事

明治七年一月二十八日  
太政官布告第十一號

今般東京府下〔第三大區七小區〕青山ニ〔皇居〕ヲ被置 〔皇太后宮同所〕御移轉被爲

在〔自今〕青山御所〕ト被稱候條此旨布告候事

明治九年二月十日  
太政官布告第十三號

東京府下〔第二大區三小區〕芝濱崎町ニ離宮ヲ被置自今芝離宮ト被稱候條此旨布告候事

明治十六年九月二十五日  
宮内省告示甲第二號

京都府下山城國葛野郡下桂村桂宮別邸ヲ今般離宮ト被定自今桂離宮ト被稱候條此旨告示候事

明治十七年七月二十九日  
宮内省告示甲第一號

京都二條城ヲ離宮ト被定自今二條離宮ト被稱候條此旨告示候事

明治二十六年六月二日  
官報

今般名古屋城本丸ノ内ヲ御料地ニ編入シ名古屋離宮ト稱セラル

明治三十一年二月三日  
宮内省告示第二號

青山御所ヲ離宮ト定メラレ自今青山離宮ト稱ス



明治三十七年二月十三日  
宮内省告示第八號

東京市麴町區霞ヶ關一丁目元有栖川宮邸ヲ離宮ト定メカスミガセキ霞關離宮ト稱セラル

○世傳御料

明治四十一年二月十日  
宮内省告示第二號  
兵庫縣武庫郡須磨村ニ離宮ヲ置キ武庫離宮ト稱セラル

左ノ通世傳御料ニ編入セラレタリ依テ公告ス

勅書

朕皇室典範ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經左記ノ土地物件ヲ世傳御料ト定ム

御名 御璽

明治二十三年十一月二十七日

| 名      | 稱 | 府縣名 | 國名  | 市郡名 |
|--------|---|-----|-----|-----|
| 宮      | 城 | 東京府 | 武藏國 | 東京市 |
| 赤阪(離宮) |   | 同   | 同   | 同   |
| 青山(御所) |   | 同   | 同   | 同   |

|      |     |     |
|------|-----|-----|
| 濱離宮  | 同   | 同   |
| 芝離宮  | 同   | 同   |
| 京都皇宮 | 京都府 | 山城國 |
|      | 京都市 |     |

|        |      |     |      |     |
|--------|------|-----|------|-----|
| 二條離宮   | 同    | 同   | 同    | 同   |
| 桂離宮    | 同    | 同   | 同    | 同   |
| 修學院離宮  | 同    | 同   | 同    | 同   |
| 函根離宮   | 神奈川縣 | 相模國 | 足柄下郡 | 愛宕郡 |
| 正倉院寶庫  | 奈良縣  | 大和國 | 添上郡  | 東京市 |
| 三年町御料地 | 東京府  | 武藏國 | 東京市  | 東京市 |
| 高輪御料地  | 同    | 同   | 同    | 同   |
| 上野御料地  | 同    | 同   | 同    | 同   |
| 南豊島御料地 | 同    | 同   | 南豊島郡 | 同   |
| 函根御料地  | 神奈川縣 | 相模國 | 足柄下郡 | 同   |
| 欽傍山御料地 | 奈良縣  | 大和國 | 高市郡  | 同   |
| 度會御料地  | 三重縣  | 伊勢國 | 多氣郡  | 同   |
| 富士御料地  | 静岡縣  | 駿河國 | 富士郡  | 同   |
| 天城御料地  | 静岡縣  | 伊豆國 | 加茂郡  | 同   |

|       |      |     |          |   |
|-------|------|-----|----------|---|
| 千頭御料地 | 静岡縣  | 遠江國 | 周知郡      | 同 |
| 萩原御料地 | 山梨縣  | 甲斐國 | 東山梨郡     | 同 |
| 丹澤御料地 | 神奈川縣 | 相模國 | 足柄上郡     | 同 |
| 三方御料地 | 山梨縣  | 甲斐國 | 南都留郡     | 同 |
| 相川御料地 | 静岡縣  | 遠江國 | 長上郡(引佐郡) | 同 |
| 水曾御料地 | 長野縣  | 信濃國 | 下伊那郡     | 同 |
| 七宗御料地 | 岐阜縣  | 美濃國 | 惠那郡      | 同 |
| 段戸御料地 | 愛知縣  | 美濃國 | 益田郡      | 同 |
| 錦織御料地 | 岐阜縣  | 美濃國 | 可兒郡      | 同 |



|       |     |     |     |
|-------|-----|-----|-----|
| 上川御料地 | 北海道 | 石狩國 | 上川郡 |
|-------|-----|-----|-----|

右御料地ノ面積段別及境界ハ(御料局)ニ保存スル所ノ圖面ヲ以テ標準トス

右宮城皇宮(御所)離宮遊寶庫ハ其土地建造物ヲ包含シ其動産ノ世傳御料ニ編入スヘキモノハ別ニ之ヲ定ム

### ○御料地拂下規程

明治四十一年十二月二十八日  
宮内省令第十號

(本文略ス)

## 帝室博物館

### ○帝室博物館出品規則並同館特別觀覽規則

明治二十三年六月二十八日  
宮内省告示第二十一號

〔帝國〕博物館出品規則〔帝國〕博物館特別觀覽規則左ノ通相定ム

#### 〔帝國〕博物館出品規則

第一條 凡所藏ノ物品ヲ本館ニ出陳センコトヲ望ムモノハ口頭若クハ書面ヲ以テ其旨

本館へ願出へシ

但書面ヲ以テ出願スルモノハ其願書ニ物品ノ性質傳來略圖等ヲ添ユヘシ

第二條 物品ノ出陳ヲ許可スルトキハ其物品ト引換ニ甲號雛形ノ預證書ヲ交付スヘシ

第三條 凡出品ハ本館ニ於テ嚴重ニ之ヲ保護スヘシト雖トモ其所有主ノ請求ニ由リテ

出陳セシモノハ萬一天災其他ノ事故ニ由リ紛失毀損シ及出陳中腐敗枯死スルコトアル

ルモ本館其責ニ任セス

第四條 所有主ノ請求ニ由リテ出陳スル物品ハ其運輸ニ係ル費用渾テ所有主ノ自辨タルヘシ

第五條 本館ノ請求ニ由リ物品ヲ出陳スルトキハ其物品ト引換ニ乙號雛形ノ預證書ヲ

交付スヘシ

第六條 本館ノ請求ニ由リ物品ヲ出陳スルトキハ其運輸ニ係ル費用渾テ本館ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第七條 本館ノ請求ニ由リテ出陳スルノ物品若シ本館ニ於テ紛失又ハ毀損スルトキハ

所有主ニ對シ相當ノ辨償ヲナスヘシ

但水火風震其他抗拒スヘカラサル災害ニ由リテ紛失毀損シ及出陳中自然ニ腐敗枯

死スルモノハ本館其責ニ任セス

第八條 紛失ノ物品若シ後日發見スルトキハ其現品ヲ所有主ニ返付シ而シテ其辨償金



ヲ交付セルモノハ之ヲ本館へ還納セシムヘシ又毀損ノ物品ニ對シ辨償ヲナストキ其毀損品ノ處分ハ本館及所有主雙方ノ協議ニ由ルヘシ

第九條 凡出品ノ模寫模造撮影等ヲ願出ルモノアルトキハ豫メ所有主ノ承諾ヲ得テ後之ヲ許可スヘシ

但生活動物若クハ各種列品集合全體ノ形狀ヲ撮影スルノ願ヲ許可スルハ此限ニアラス

第十條 凡出品常時手入ヲ要スルモノハ本館之カ手入ヲナスヘシ但修繕ハ此限ニアラス

第十一條 凡出陳動物ノ食餌醫藥等ハ本館ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 凡出陳動植物ヨリ生スル所ノ卵子菓實等ハ養育ノ償トシテ本館ノ所有トナスヘシ

第十三條 凡出品ノ預期限ハ三箇年トシ期滿ルトキハ之ヲ所有主ニ通知スヘシ若シ更ニ出陳ヲ繼續スルトキハ其都度預證書ヲ書換ヲナスヘシ

但品質ニヨリ特ニ預期限ヲ短縮スルコトアルヘシ

第十四條 預期限ノ計算方ハ現品ヲ本館ニ領收スルコト六月以前ニ係ルモノハ其年一月ヨリ起算シ七月以後ニ係ルモノハ其年七月ヨリ起算スルモノトス

第十五條 出品預期限内ト雖トモ所有主ノ望ニヨリ又ハ本館ノ都合ニヨリ物品ヲ返付スルコトアルヘシ

第十六條 凡返付スヘキ物品ハ休日及執務時限外ヲ除クノ外何時ニテモ預證書ト引換ニ之ヲ引渡スヘシ

第十七條 出品預期限滿チテ之ヲ所有主ニ通知スルニ所有主ノ所在不分明ナルトキハ官報及三種以上ノ新聞紙上ニ於テ五日間之ヲ廣告スヘシ而シテ滿期後三箇年ヲ經ル

モ尙ホ受取方ヲ申出サルトキハ兼テ交付セル出品預證書ハ無効トシ現品ハ本館ノ隨意ニ之ヲ處分シ爾後受取方申出ルモ一切受理セサルヘシ

第十八條 凡出品ノ預證書ヲ紛失又ハ毀損スルモノハ速ニ其旨本館へ届出證書ノ再度交付若クハ引換ヲ請求スヘシ

但紛失ニ係ルモノハ官報又ハ新聞紙ニ廣告シ後三箇月ヲ經テ發見セサルトキニ引換證書ヲ交付スヘシ

第十九條 紛失又ハ毀損ニヨリ再度預證書ヲ交付シ若クハ之ヲ引換ユルトキハ其次第ヲ證書面ニ摘記スルモノトス

第二十條 凡本館へ陳列ノタメ物品ヲ寄附セント欲スルモノハ其品名形狀傳來等ヲ詳記シ管轄廳ヲ經由シテ本館へ願出ヘシ

但本人ノ便宜ニヨリ直ニ願出ルモ妨ナシ

第二十一條 物品ヲ寄附セントスルノ志アルモ僻遠ノ地ニ在リテ運輸ノ費用ヲ支辨シ



難キモノハ其品柄ニヨリ本館ニ於テ其費用ヲ支辨スルコトアルヘシ  
甲號雛形

第 號

出品預證書

右出陳ノ請求ヲ承認シ書面ノ品物正ニ預リ候也  
但預期限明治 年 月マテ

年 月 日

〔帝國〕博物館總長

殿

(裏面出品規則ヲ列記ス)

乙號雛形

第 號

出品預證書

右本館ノ請求ニヨリ御出陳相成正ニ預リ候也  
但預期限明治 年 月マテ

年 月 日

〔帝國〕博物館總長

殿

(裏面出品規則ヲ列記ス)

〔帝國〕博物館特別覽觀規則

第一條 本館陳列ノ物品ヲ摸寫摸造撮影又ハ手ニ取り熟覽セント欲スルモノハ之ヲ特別覽觀トシ本館ニ於テ差支ナキモノニ限リ左ノ箇條ニ由リテ之ヲ許可スヘシ

第二條 特別覽觀ヲ望ムモノハ其品物ヲ指定シ本館庶務課ニ申出特別覽觀券ノ交付ヲ請フヘシ

第三條 特別覽觀券ハ一日限ノ通用トシ一枚ニ付價金三拾錢トス券面記名者ノ外通用スルヲ許サス

第四條 特別覽觀券ハ覽觀中本人之ヲ所持シ退館ノ節券面記載ノ品名ト現品トヲ照合シ之ヲ立會ノ吏員ニ返付スヘシ

第五條 他向ノ出品ニ係ルモノハ手ニ取り熟覽スルノ外所有主ノ承諾ヲ經ルニアラサ



レハ摸寫摸造撮影スルヲ許サス

但生活動物若クハ各種列品集合全體ノ形狀ヲ撮影スルカ如キハ此限ニアラス

第六條 摸寫摸造撮影又ハ熟覽中現品ヲ毀損スルトキハ修繕實費又ハ本館ニ於テ定ムル所ノ價格ニ照シテ相當ノ償金ヲ納付スヘシ

但現品全ク破壊シテ全部ノ償金ヲ納付セシムルモ毀損品ハ之ヲ本館ニ留ムヘシ

第七條 特別覽觀券ヲ所持スルモノハ望ミニヨリ各部ノ列品ヲ縱覽スルコトヲ得

第八條 繪畫彫刻其他工藝學校ノ教員生徒ニシテ學術研究ノ爲メ本館ノ列品ヲ摸寫摸造若クハ手ニ取リ熟覽セント欲スルモノアルトキハ無料ヲ以テ特別覽觀券ヲ交付スルコトアルヘシ

第九條 列品ノ圖影ヲ印寫シテ發賣セント欲スルモノハ本館ノ許可ヲ請クヘシ

第十條 特別覽觀ノ時限ハ開館ヨリ閉館マテトシ休館ノ日ハ覽觀ヲ許サス

特別覽觀券雛形

博[國帝]

特別覽觀券

|    |    |     |    |    |
|----|----|-----|----|----|
| 館物 | 姓名 | 年月日 | 指定 | 品名 |
|    |    |     |    |    |

(裏面特別覽觀規則ヲ列記ス)

○京都帝室博物館及奈良帝室博物館社寺什寶受託規則

明治二十八年一月二十六日 改正 三六年第二號  
宮内省達乙第一號

〔帝國〕京都博物館及〔帝國〕奈良博物館社寺什寶受託規則左ノ通相定メ各開館當日ヨリ施行ス

〔帝國〕京都博物館社寺什寶受託規則

第一條 〔帝國〕京都博物館ニ於テハ社寺什寶保存ノタメ其寄託ヲ懇懇セシコトヲ期シ

帝國博物館



社寺ニ於テ其什寶ヲ該館ヘ寄託スルトキハ左ノ各條ニ依リテ處分スヘシ

第二條 〔帝國〕京都 奈良博物館ヘ寄託シタル社寺什寶ノ修繕費ハ該館ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第三條 〔帝國〕京都 博物館ニ於テ收入スル通券料ノ内通券製造費及通券賣下手數料ヲ除キ其他ハ悉皆什寶ヲ寄託シタル社寺ヘ分與スヘシ

第四條 前條ノ分與金ハ第八條ニ依リ寄託什寶ノ點數ニ應シテ算出シ一箇年當一額六拾錢ニ滿タサルトキハ當該博物館ノ經費中ヨリ補充シテ當一ノ分與額ヲ金六拾錢トスヘシ

第五條 〔帝國〕京都 奈良博物館ヘ寄託スル社寺什寶ノ荷造及運搬費ハ渾テ該館ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六條 受託社寺什寶修繕ノ要否及其方法順序ハ一ニ當該博物館長ノ見込ニ依リ其修繕ヲ加ヘントスルトキハ豫メ寄託者ノ承認ヲ經テ著手スヘシ

第七條 修繕ハ博物館内ニ於テ之ヲ爲シ館長之ヲ監督スルモノトス

第八條 第三條ノ分與金ハ寄託什寶ノ點數ニ應シテ之ヲ分與スルモノトシ左ノ割合ニ依リテ之ヲ算出ス

但〔臨時全國寶物取調局〕ニ於テ鑑査未済ノモノハ基鑑査確定マテ假ニ〔帝國〕京都 奈良

博物館ニ於テ相當ノ部ニ編入スルモノトス

一部 〔臨時全國寶物取調局〕ニ於テ優等ノ鑑査狀ヲ附與セシモノ

右一點ヲ以テ二ニ當ツ

二部 〔臨時全國寶物取調局〕ニ於テ次等ノ鑑査狀ヲ附與セシモノ

右一點ヲ以テ二ニ當ツ

三部 〔臨時全國寶物取調局〕ニ於テ寶物參考簿ニ登録セシモノ

右一點ヲ以テ一ニ當ツ

第九條 點數ノ計算法數箇ヲ合シテ一點ヲナスモノハ五箇未滿ハ一點トシ五箇以上二十箇未滿ハ二點トシ二十箇以上ハ渾テ三點トス

但五箇以上ヲ以テ一點ヲナスモノト雖其全部ヲ出ササルトキハ實際ノ箇數ニヨリテ之ヲ算出スヘシ

小像ヲ一籠ニ納メ又ハ一臺ニ附著セシモノ等ハ其籠若クハ臺ノ員數ニ依リテ之ヲ算スヘシ

第十條 分與金ノ割合ハ當期分ノ總額ヲ寄託品ノ總當數ニテ除シ當一ノ得ル所ヲ積算シテ之ヲ定ムルモノトス

但當一得ル所ノ金ニ厘未滿ノ端數アルトキハ厘位ニ止ム

第十一條 分與スヘキ通券料一月ヨリ十二月マテノ分ヲ翌年一月ニ交付スヘシ



- 第十二條 分與金ノ計算ハ出品シタル月ヨリ之ヲ起算シ返付シタル月ハ之ヲ算入セス  
祭典又ハ法會ノタメ一時物品ヲ取出シ一週日ニ及テ之ヲ返付セサルトキハ之ニ對ス  
ル一箇月分ノ分與金ヲ控除スヘシ
- 第十三條 前各條ノ取扱ハ博物館ヨリ需求シテ寄託セシメタルモノト社寺ノ願ニヨリ  
寄託シタルモノトノ別ニ依リテ異ナルコトナシ
- 第十四條 本規則ニ定ムル外寄託物出品ニ關スル手續ハ渾テ〔帝國〕京都 帝國博物館出品規  
則ニ依ル

### 御陵墓

#### ○御陵墓調査上發見ノ古墳届出方

明治七年五月二日  
太政官達第五十九號

府縣

上世以來御陵墓ノ所在未定ノ分即今取調中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所  
ハ勿論其他古墳ト相見ハ候地ニ狼ニ發掘爲致間敷候若差向墾關ノ地ニ有之分ハ繪圖面

相副〔教部省〕へ伺出此旨相達候事

明治十三年十一月十五日  
宮内省達乙第三號

府縣沖繩縣  
ヲ除ク

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今取調中ニ付云云ノ件去ル七年五月第五十九號ヲ以テ公  
達ノ趣有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地タリテ狼リニ發掘不致筈ニ候ヘテ自然  
風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候様ノ次第有之候ハ、口  
碑流傳ノ有無ニ不拘凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其他名竝近傍ノ字等ヲモ取調當省へ可  
申出此旨相達候事

#### ○御歷代天皇皇后及皇子女御殯歛地等地種編入方

明治八年五月二十四日  
內務省達乙第六十六號

府縣

御歷代 天皇及皇后皇妃皇子皇女御殯歛地等御由緒判然タル場所ハ官有地第三種舊跡  
名區之部ニ編入保存可致候條御由緒等詳密調査ヲ遂ケ地形坪數等明詳記載圖面相副可  
伺出此旨相達候事

御陵墓



### ○御陵墓制札建設方

明治十年二月六日  
内務省達乙第八號

皇后以下御陵墓有之

府縣

皇后皇妃皇子皇女等御陵墓制札別紙之通相定候條地方官ニ於テ取調建設可致此旨相達候事

但御塲所狹隘ニテ建設差支候向ハ取調可伺出事

(別紙雛形改正ニ付略ス)

明治十一年十月五日  
宮内省達

御陵墓有之

府縣

御陵墓制札面自今太政官並當省名及府縣廳之添書ヲ削除シ某府縣ト署名可致其他別紙雛形之通改定候條此旨相達候事

但從前建設有之分ハ建替等之節可書改事

(別紙)

(△印ハ朱書)

寸法適宜

|           |
|-----------|
| 何天皇何陵     |
| 周圍何百何間    |
| 一周圍内ニ立入ル事 |
| 一魚島等ヲ捕フル事 |
| 一竹木等ヲ伐ル事  |
| 右令禁止者也    |
| 年號月       |
| 某府縣       |

△皇后以下御陵墓如左

△何天皇皇后

△同文

△何天皇御母

△同文

△何天皇皇子

△何天皇皇女

△何 御陵

△同文

### ○御陵墓掃除方

明治十二年三月一日  
宮内省達乙第一號

御陵墓有之府縣

各管内御陵墓之内御塲所手廣ニテ平生掃除行届兼候向ハ自今年一兩度宛下草並竹篠藤葛之類刈除漸次良木生長域内清潔相成候様於地方官適宜方法相設取計可致此旨相達候事



○諸王墳墓中奉祀子孫ナキモノ取扱方

明治十四年一月十九日  
宮内省達乙第一號

府縣沖繩縣  
ヲ除ク

古來諸王ニテ奉祀ノ子孫無之方々(賜姓又ハ親王宣下ノ有無ニ拘ラス)墳墓ハ自今總テ  
皇子御墓ニ準シ取扱候條各管内ニ於テ該墳墓現存ノ向ハ地方傳説等詳細取調繪圖面  
相添可申出此旨相違候事

御祭典 附祭祝日

○新ニ神殿ヲ造リ神器ト皇靈ヲ奉安ス

明治四年九月十四日  
御沙汰

今般別紙 詔書ノ通被 仰出候ニ付テハ追テ神殿御造立迄現今神祇省中御鎮座ノ 皇  
靈當分 賢所へ被爲遷候事  
詔書寫

朕恭ク惟ルニ 神器 ハ天祖威靈ノ憑ル所歷世 聖皇ノ奉シテ以テ天職ヲ治メ玉フ所

ノ者ナリ今ヤ朕不逮ヲ以テ復古ノ運ニ際シ忝ク 鴻緒ヲ承ク新ニ 神殿ヲ造リ 神器  
ト 列聖皇靈トヲコ、ニ奉安シ仰テ以テ萬機ノ政ヲ視ント欲ス爾群卿百僚其レ斯旨ヲ  
體セヨ  
明治四年辛未九月十四日

○八神殿ヲ神殿ト稱ス

明治五年十一月二十七日  
太政官布告第三百七十七號

是迄宮中八神殿ニ於テ天神地祇及八神兩座ニ御祭被爲在候處自今天神地祇八神御合併  
八神殿ノ稱ヲ廢シ更ニ神殿ト可稱旨被 仰出候事

○皇大神宮神嘗祭御拜式並賢所御親祭日

明治四年九月十四日  
御沙汰

自今(九月十七日)宮中ニ於テ 皇(太)神宮(御拜式被爲定 主上 中宮御遙拜並百官  
拜禮)被 仰出候事  
同日 賢所 御親祭 (中宮御拜並百官拜禮)被 仰出候事  
但當年ノ儀ハ諸省奏任官以上參拜可致事



明治十二年七月五日  
太政官布告第二十七號

神嘗祭自今十月十七日ニ改定候條此旨布告候事

○神武天皇即位日ヲ紀元節ト稱シ祝日ト定メ  
例年御祭典執行

明治五年十一月十五日  
太政官布告第三百四十二號

今般太陽曆御頒行 神武天皇御即位ヲ以テ紀元ト被定候ニ付其旨ヲ被爲告候爲メ來ル  
二十五日 御祭典被執行候事  
但當日服者參 朝可憚事

明治五年十一月十五日  
太政官布告第三百四十四號

〔第一月二十九日〕神武天皇御即位相當ニ付祝日ト被定例年御祭典被執行候事

明治六年三月七日  
太政官布告第九十一號

神武天皇御即位日ヲ紀元節ト被稱候事

明治五年十一月十五日  
太政官布告第三百四十五號

府縣

第三百四十二號ノ通被 仰出候ニ付テハ各地方ニ於テ布告相達候上遙拜所ヲ設ケ便宜  
ノ日ヲ以テ官員ヲ始メ管内華士族平民ニ至迄參拜候様可取計候事

○春秋二季皇靈祭日

明治十一年六月五日  
太政官達第二十二號

〔官〕院省〔使〕府縣

綏靖天皇以下後櫻町院天皇迄御歷代御式年御正辰祭被廢更ニ春秋二季祭ヲ被置神武天  
皇ヲ御正席トシ先帝迄御歷代竝ニ后妃以下皇親御合祭被執行候條此旨相達候事  
〔但神武天皇及ヒ後桃園院天皇以下御近陵御式年御正辰祭竝ニ其后妃皇親御配享ノ儀  
ハ猶從前ノ通執行候事〕

春季皇靈祭

春分日

秋季皇靈祭

秋分日

○宣命ヲ御祭文ト改稱

明治六年四月三日  
太政官布告第二百二十三號

從前ノ宣命ヲ自今御祭文ト被改稱候事

御祭典附祭祝日



○皇室祭祀令

明治四十一年九月十九日  
皇室令 第一一號

朕皇室祭祀令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
皇室祭祀令

第一章 總則

- 第一條 皇室ノ祭祀ハ他ノ皇室令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 祭祀ハ大祭及小祭トス
- 第三條 祭祀ハ附式ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ
- 第四條 天皇喪ニ在ル間ハ祭祀ニ御神樂及東游ヲ行ハス
- 第五條 喪ニ在ル者ハ祭祀ニ奉仕シ又ハ參列スルコトヲ得ス但シ特ニ除服セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 祭祀ニ奉仕スル者ハ大祭ニハ其ノ當日及前二日小祭ニハ其ノ當日齋戒スヘシ
- 第七條 陵墓祭及官國幣社奉幣ニ關スル規程ハ本令又ハ他ノ皇室令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 大祭

第八條 大祭ニハ天皇皇族及官僚ヲ率キテ親ラ祭典ヲ行フ

天皇喪ニ在リ其ノ他事故アルトキハ前項ノ祭典ハ皇族又ハ掌典長ヲシテ之ヲ行ハシ

第九條 大祭及其ノ期日ハ左ノ如シ

- 元始祭 一月三日
- 紀元節祭 二月十一日
- 春季皇靈祭 春分日
- 春季神殿祭 春分日
- 神武天皇祭 四月三日
- 秋季皇靈祭 秋分日
- 秋季神殿祭 秋分日
- 神嘗祭 十月十七日
- 新嘗祭 十一月二十三日ヨリ二十四日ニ亘ル
- 先帝祭 毎年崩御日ニ相當スル日
- 先帝以前三代ノ式年祭 崩御日ニ相當スル日
- 先后ノ式年祭 崩御日ニ相當スル日
- 皇妣タル皇后ノ式年祭 崩御日ニ相當スル日



第十條 式年ハ崩御ノ日ヨリ三年五年十年二十年三十年四十年五十年百年及爾後每百年トス

神武天皇祭及先帝祭前項ノ式年ニ當ルトキハ式年祭ヲ行フ

第十一條 元始祭ハ賢所皇靈殿神殿ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 紀元節祭春季皇靈祭神武天皇祭秋季皇靈祭先帝祭先帝以前三代ノ式年祭先后ノ式年祭及皇妣タル皇后ノ式年祭ハ皇靈殿ニ於テ之ヲ行フ但シ先帝祭ハ一周年祭ヲ訖リタル次年ヨリ之ヲ行フ

神武天皇祭先帝祭先帝以前三代ノ式年祭先后ノ式年祭及皇妣タル皇后ノ式年祭ノ當日ニハ其ノ山陵ニ奉幣セシム

第十三條 春季神殿祭及秋季神殿祭ハ神殿ニ於テ之ヲ行フ

第十四條 神嘗祭ハ神宮ニ於ケル祭典ノ外仍賢所ニ於テ之ヲ行フ

神嘗祭ノ當日ニハ天皇神宮ヲ遙拜シ且之ニ奉幣セシム

第十五條 新嘗祭ハ神嘉殿ニ於テ之ヲ行フ

新嘗祭ノ當日ニハ賢所皇靈殿神殿ニ神饌ヲ奉ラシメ且神宮及官國幣社ニ奉幣セシム

第十六條 新嘗祭ヲ行フ前一日綾綺殿ニ於テ鎮魂ノ式ヲ行フ但シ天皇喪ニ在ルトキハ之ヲ行ハス

第十七條 新嘗祭ハ大嘗祭ヲ行フ年ニハ之ヲ行ハス

第十八條 神武天皇及先帝ノ式年祭ハ陵所及皇靈殿ニ於テ之ヲ行フ但シ皇靈殿ニ於ケル祭典ハ掌典長之ヲ行フ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ大祭ニ準シ祭典ヲ行フ

一 皇室又ハ國家ノ大事ヲ神宮賢所皇靈殿神殿神武天皇山陵先帝山陵ニ親告スルトキ

二 神宮ノ造營ニ因リ新宮ニ奉遷スルトキ

三 賢所皇靈殿神殿ノ造營ニ因リ本殿又ハ假殿ニ奉遷スルトキ

四 天皇太后皇太后ノ靈代ヲ皇靈殿ニ奉遷スルトキ

前項ノ規定ニ依リ祭典ヲ行フ期日ハ之ヲ勅定シ宮内大臣之ヲ公告ス

第三章 小祭

第二十條 小祭ニハ天皇皇族及官僚ヲ率キテ親ヲ拜禮シ掌典長祭典ヲ行フ

天皇喪ニ在リ其ノ他事故アルトキハ前項ノ拜禮ハ皇族又ハ侍從ヲシテ之ヲ行ハシム

第二十一條 小祭及其ノ期日ハ左ノ如シ

歲旦祭 一月一日

祈年祭 二月十七日

賢所御神樂 十二月中旬

天長節祭 每年天皇ノ誕生日ニ相當スル日



先帝以前三代ノ例祭

毎年崩御日ニ相當スル日

先后ノ例祭

毎年崩御日ニ相當スル日

皇妣タル皇后ノ例祭

毎年崩御日ニ相當スル日

綏靖天皇以下先帝以前四代ニ至ル 歷代天皇ノ式年祭

崩御日ニ相當スル日

第二十二條 前條ノ例祭ハ式年ニ當ルトキハ之ヲ行ハス

第二十三條 歲旦祭祈年祭及天長節祭ハ賢所皇靈殿神殿ニ於テ之ヲ行フ

歲旦祭ノ當日ニハ之ニ先タテ四方拜ノ式ヲ行ヒ祈年祭ノ當日ニハ神宮及官國幣社ニ

奉幣セシム但シ天皇喪ニ在リ其ノ他事故アルトキハ四方拜ノ式ヲ行ハス

第二十四條 賢所御神樂ハ賢所ニ於テ之ヲ行フ

第二十五條 例祭及式年祭ハ皇靈殿ニ於テ之ヲ行フ但シ例祭ハ一周年祭ヲ訖リタル次

年ヨリ之ヲ行フ

第十條第一項ノ規定ハ前項ノ式年ニ之ヲ準用ス

第二十六條 皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王王妃女王ノ靈代

ヲ皇靈殿ニ遷ストキハ小祭ニ準シ祭典ヲ行フ此ノ場合ニ於テ特旨ニ由ルノ外拜禮

ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ祭典ヲ行フ期日ハ之ヲ勅定ス

附式

第一編 大祭式

賢所ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻文武高官有爵者優遇者朝集所ニ參集ス

但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服用制ナキ者ハ通常禮服女子ハ中禮服

關係諸員式部職掌典部樂部職員ヲ除ク 亦同シ

次ニ親王親王妃內親王王王妃女王綾綺殿ニ參入ス

次ニ皇太子皇太子妃又ハ皇太孫皇太孫妃以下之ニ倣フ綾綺殿ニ參入ス

次ニ天皇皇后綾綺殿ニ渡御

次ニ天皇御服御東帶黃縷染御袍、未成年ナルトキハ闕腋御袍、空頂御黑幘、以下天皇ノ御服ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆本儀ニ同シヲ供ス

次ニ天皇ニ御手水ヲ供ス

次ニ天皇ニ御笏ヲ供ス

次ニ皇后ニ御服御五衣、御小鞋、御長袴、以下皇后ノ御服ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆本儀ニ同シヲ供ス

次ニ皇后ニ御手水ヲ供ス

次ニ皇太子ニ儀服東帶黃丹袍、未成年ナルトキハ闕腋袍、空頂黑幘、以下皇太子ノ儀服ニ付キ別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆本儀ニ同シヲ供ス

次ニ皇太子ニ手水ヲ供ス



次ニ皇太子ニ笏ヲ供ス上

次ニ皇太子妃ニ儀服五衣、小袿、長袴、以下皇太子妃ノ儀服ニ付ヲ供ス女官

次ニ皇太子妃ニ手水ヲ供ス上

次ニ皇太子妃ニ檜扇ヲ供ス上

此ノ間供奉諸員宮内大臣、侍從長、式部長官、侍從、皇后宮大夫、東宮侍從長、東宮侍從、東宮主事、女官 服裝ヲ易フ男子ハ衣冠、女子ハ袿袴

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物色目時ニ臨ミ之ヲ定ム、以下別ニヲ供ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

次ニ皇后出御

皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ親王妃内親王王妃女王供奉ス

次ニ皇太子參進

東宮大夫前行シ東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官後ニ候ス

次ニ皇太子妃參進

東宮主事前行シ女官後ニ候ス

次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ皇后内陣ノ御座ニ著御女官外陣ニ候ス

次ニ皇太子内陣ノ座ニ著ク東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ外陣ニ候ス

次ニ皇太子妃内陣ノ座ニ著ク女官外陣ニ候ス

次ニ天皇御拜禮御告文ヲ奏ス御鈴内掌、典奉仕

次ニ皇后御拜禮

次ニ皇太子皇太子妃拜禮

次ニ親王妃内親王王妃女王拜禮

次ニ天皇皇后入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ皇太子皇太子妃退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮



次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

(注意)天皇襖祿ニ在ルトキハ女官之ヲ奉抱ス以下之ニ倣フ太皇太后皇太后

在ルトキハ皇后ノ次ニ之ヲ加フ其ノ御服ハ皇后ニ同シ皇靈殿神饌ノ

儀之ニ倣フ

皇靈殿ノ儀

其ノ儀賢所ノ式ノ如シ御鈴ノ儀ナシ

但シ皇靈祭及式年祭ニハ天皇皇后入御ノ前ニ於テ東游ヲ行ヒ紀元節祭及先帝祭ニ

ハ當夕賢所御神樂ノ式ニ準シ御神樂ヲ行フ又神武天皇式年祭ニハ天皇御名代衣冠

ノ拜禮ヲ皇后御拜禮ノ前ニ加ヘ太皇太后皇太后在ルトキハ其ノ御拜禮ヲ皇后御拜

禮ノ次ニ加フ先帝式年祭ニハ天皇御名代及皇后御名代袴ノ拜禮ヲ皇太子拜禮ノ前

ニ加ヘ太皇太后皇太后在ルトキハ太皇太后御拜禮及皇太后御名代袴拜禮ヲ皇后御

名代拜禮ノ次ニ加フ

神饌ノ儀

其ノ儀賢所ノ式ノ如シ御鈴ノ儀ナシ

新嘗祭神嘉殿ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻文武高官有爵者優遇者朝集所ニ參集ス

次ニ神座ヲ奉安シ齋火ノ燈燎ヲ點ス

此ノ時庭燎ヲ燒ク

次ニ親王王綾綺殿ニ參入ス

次ニ皇太子綾綺殿ニ參入ス

次ニ天皇綾綺殿ニ渡御

次ニ天皇ニ御祭服御幟(未成年ナルトキハ之ヲ供セス)、御齋衣、御下裳、御祖、御單、御表袴、御大口、御石帶、御襪ヲ供ス侍從

次ニ天皇ニ御手水ヲ供ス上

次ニ天皇ニ御笏ヲ供ス上

次ニ皇太子ニ齋服冠、白袍、白袴ヲ供ス東宮侍從

次ニ皇太子ニ手水ヲ供ス上

次ニ皇太子ニ笏ヲ供ス上

此ノ間供奉諸員宮内大臣、侍從長、式部長官、侍從、東宮大夫、東宮侍從長、東宮侍從 服裝ヲ易フ衣冠

次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク



次ニ掌典長祝詞ヲ奉ス

次ニ天皇出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從左右各一人脂燭ヲ乗ル侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武

官御後ニ候シ親王王供奉ス

次ニ皇太子參進

東宮大夫前行シ東宮侍從左右各一人脂燭ヲ乗ル東宮侍從壺切御劍ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武

官長東宮武官後ニ候ス

次ニ天皇隔殿ノ御座ニ著御侍從劍璽ヲ案上ニ奉安ス

次ニ皇太子隔殿ノ座ニ著ク東宮侍從壺切御劍ヲ案上ニ奉安ス

此ノ時供奉諸員隔殿ノ庇ニ候ス

次ニ神饌ヲ行立ス

其ノ儀掌典補一人脂燭ヲ秉リ掌典一人削木ヲ執ル同一人海老鰯鹽槽ヲ執リ同一人多

志良加ヲ執ル陪膳女官五衣、唐衣、裳、小忌衣ヲ加ヘ日陰絲並心葉ヲ著ク一人御刀子同執リ後取女官同一人御巾子

管ヲ執ル女官唐衣、衣、紅切袴、群、日陰絲並心葉ヲ著ク一人神食薦ヲ執リ同上一人御食薦ヲ執ル同上一人御箸

管ヲ執リ同上一人御枚手管ヲ執ル掌典一人御飯管ヲ執リ同上一人鮮物管ヲ執ル掌典補

一人干物管ヲ執リ同上一人御菓子管ヲ執ル同一人鮑汁漬ヲ執リ同上一人海藻汁漬ヲ執ル

同二人空蓋ヲ執リ同二人御羹八足机ヲ昇ク同二人御酒八足机ヲ昇キ同二人御粥八足

机ヲ昇キ同二人御直會八足机ヲ昇ク

次ニ削木ヲ執レル掌典警蹕ヲ稱ス

此ノ時神樂歌ヲ奏ス

次ニ天皇本殿ノ御座ニ進御

次ニ御手水ヲ供ス陪膳女官奉仕

次ニ神饌御親供

次ニ御拜禮御告文ヲ奏ス

次ニ御直會

次ニ神饌撤下陪膳女官奉仕

次ニ御手水ヲ供ス同上

次ニ神饌退下

其ノ儀行立ノ時ノ如シ

次ニ皇太子拜禮

次ニ親王王拜禮

次ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ皇太子退下

御祭典附祭祝日



供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ各退下

(注意)天皇襦袢ニ在ルトキハ出御ナシ神饌ハ掌典長之ヲ供進ス  
新嘗祭前一日鎮魂ノ儀  
其ノ儀御衣振動及絲結ノ式ヲ行フ

神宮遙拜ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻親王王便殿ニ參入ス

次ニ天皇便殿ニ渡御

次ニ御服ヲ供ス侍從奉仕

次ニ御手水ヲ供ス同上

次ニ御笏ヲ供ス同上

此ノ間供奉諸員侍從長、侍從、服裝ヲ易フ衣冠

掌典長前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候シ親王王宮  
内大臣式部長官供奉ス

次ニ御遙拜

次ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

神宮ニ使勅發遣ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻宮内大臣式部長官式部官著床

但シ服裝小禮服禮裝禮服關係諸員亦同シ

次ニ勅使衣冠著床

次ニ出御御直

侍從長前行シ侍從御劍ヲ奉シ侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候ス

次ニ幣物御覽掌典長侍立

次ニ御祭文ヲ勅使ニ授ク宮内大臣奉仕

次ニ幣物ヲ辛櫃ニ納ム

次ニ勅使幣物ヲ奉シ殿ヲ辭ス

此ノ時式部官警蹕ヲ稱フ

次ニ入御



供奉出御ノ時ノ如シ  
次ニ各退下

神宮ニ奉幣ノ儀  
其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

山陵ノ儀

當日早旦陵所ヲ裝飾ス

時刻文武高官有爵者優遇者幄舎ニ參集ス

次ニ儀仗兵陵門外ニ整列ス

次ニ天皇御休所ニ著御

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間奏樂

次ニ掌典祝詞ヲ奏ス

次ニ出御御正裝

式部長官宮内大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候

シ親王王供奉ス

次ニ御拜禮告文ヲ奏ス

次ニ親王王拜禮

次ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間奏樂

次ニ各退下

(注意)先帝式年祭ニハ皇后ヲ天皇ノ次ニ加ヘ皇太后在ルトキハ皇后ノ次ニ

之ヲ加フ其ノ御服ハ御中禮服トス

山陵ニ勅使發遣ノ儀

其ノ儀神宮ニ勅使發遣ノ式ノ如シ

山陵ニ奉幣ノ儀

當日早旦陵所ヲ裝飾ス

時刻儀仗兵陵門外ニ整列ス

次ニ勅使衣冠參進

次ニ勅使本位ニ就ク

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間奏樂



次ニ掌典祝詞ヲ奏ス

次ニ幣物ヲ供ス

次ニ勅使進テ祭文ヲ奏ス

次ニ勅使拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間奏樂

次ニ各退下

神宮賢所皇靈殿神殿及山陵ニ親告ノ儀

神宮賢所皇靈殿神殿ノ造營ニ因リ奉遷ノ儀

以上其ノ儀時ニ臨ミ之ヲ定ム

天皇ノ靈代奉遷ノ儀天皇太后皇太后ノ靈代奉遷ノ儀之ニ準ス

皇靈殿奉告ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻御扉ヲ開ク

此ノ間奏樂

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間奏樂

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間奏樂

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間奏樂

次ニ各退下

權殿ノ儀

時刻宮内高等官及先帝禁近奉仕者著床

次ニ御簾ヲ褰ク

此ノ間奏樂

次ニ神饌ヲ供ス

此ノ間奏樂

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇御代拜侍從奉仕、衣冠單

次ニ皇后御代拜女官奉仕、冠袴

次ニ皇太子代拜東宮侍從奉仕、衣冠單

次ニ皇太子妃代拜女官奉仕、冠袴



次ニ諸員拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス

此ノ間奏樂

次ニ掌典長靈代ヲ皇靈殿ニ奉遷ス諸員供奉

此ノ時式部官警蹕ヲ稱フ

皇靈殿親祭ノ儀

其ノ儀本編皇靈殿ノ式ノ如シ

第二編 小祭式

寶所ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻宮内勅任官宮内奏任官總代各一人著床

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ出御是ヨリ先キ綾綺殿ニ於テ天皇渡御、皇太子參入、天皇ニ御服、御手水、御笏ヲ供シ皇太子ニ儀服、手水、御笏ヲ供シ及供奉諸員服裝ヲ易フルノ儀アリ總テ第一編寶所ノ儀ニ同キヲ以テ今其ノ項ヲ掲ケス

式部長官前行シ侍從御劍ヲ奉シ侍從長侍從武官長侍從武官御後ニ候ス

次ニ御拜禮御給内掌典奉仕

次ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ皇太子參進

東宮大夫前行シ東宮侍從御劍ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官後ニ候ス

次ニ皇太子拜禮訖テ退下

供奉參進ノ時ノ如シ

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物神饌ヲ撤ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ各退下

皇靈殿ノ儀

其ノ儀寶所ノ式ノ如シ御給内儀ナシ

但シ例祭及式年祭ニハ著床者中ニ親王王及宮内大臣又ハ宮内次官ノ内一人ヲ加ヘ



皇后ヲ天皇ノ次ニ皇太子妃ヲ皇太子ノ次ニ加フ從テ此ノ場合ニ於テハ綾綺殿ニ於ケル儀注中ニ皇后渡御皇太子妃參進皇后ニ御服御手水御檜扇ヲ供シ皇太子妃ニ御服御手水檜扇ヲ供スルノ項アルコト亦第一編賢所ノ儀ニ同シ

其ノ儀賢所ノ式ノ如シ御鈴ノ儀ナシ

四方拜ノ儀儀且祭賢所ノ式ニ先ダチ之ヲ行フ

當日早日式場ヲ裝飾ス

時刻出御

掌典長前行シ侍從御劍ヲ奉シ侍從長侍從武官長侍從武官御後ニ候シ宮内大臣

式部長官供奉ス

次ニ御拜禮訖テ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

(注意)本儀ニ於ケル天皇ノ御服及供奉員中侍從長侍從ノ服裝ハ賢所ノ儀ニ同シ

賢所御神樂ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻大勳位親任官及各廳勅任官總代宮内奏任官總代各一人有爵者總代每爵一人著床

次ニ御扉ヲ開ク

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ神饌幣物ヲ供ス

此ノ間神樂歌ヲ奏ス

次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇出御是ヨリ先キ綾綺殿ニ於テ天皇皇后渡御、皇太子皇太子妃參入、天皇ニ御服、御手水、御笏、皇后ニ御服、御手水、御檜扇ヲ供シ皇太子ニ御服、手水、笏、皇太子妃ニ御服、手水、檜扇ヲ供シ及供奉諸員服ノ儀ニ同キヲ以テ今其ノ項ヲ掲ケス

式部長官前行シ侍從御劍ヲ奉シ侍從長侍從武官長侍從武官御後ニ候シ親王王供奉ス

次ニ皇后出御

皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ親王妃内親王王妃女王供奉ス

次ニ皇太子參進

東宮太夫前行シ東宮侍從御劍ヲ奉シ東宮侍從長東宮侍從東宮武官長東宮武官後ニ候ス

次ニ皇太子妃參進

東宮主事前行シ女官後ニ候ス



- 次ニ天皇皇后御拜禮
- 次ニ皇太子皇太子妃拜禮
- 次ニ親王妃内親王王王妃女王拜禮
- 次ニ御神樂
- 次ニ天皇皇后入御
- 供奉出御ノ時ノ如シ
- 次ニ皇太子皇太子妃退下
- 供奉參進ノ時ノ如シ
- 次ニ諸員拜禮
- 次ニ幣物神饌ヲ撤ス
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ御屏ヲ閉ツ
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ各退下
- 神宮ニ勅使發遣ノ儀
- 其ノ儀第一編神宮ニ勅使發遣ノ式ニ準ス
- 神宮ニ奉幣ノ儀

其ノ儀神宮ノ祭式ニ依ル

皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃内親王王王妃女王ノ靈代ヲ皇靈殿ニ遷スノ儀

皇靈殿奉告ノ儀

權殿ノ儀

以上其ノ儀第一編天皇ノ靈代奉遷ノ儀中各其ノ式ニ準ス

皇靈殿祭典ノ儀

特旨ニ由リ天皇親ヲ拜禮ヲ行フトキハ其ノ儀本編皇靈殿ノ式ノ如シ自餘ハ掌典長ノ主祭ニ止ム但シ皇后ノ靈代ヲ遷ストキハ天皇御代拜禮<sub>衣冠</sub>及皇太子皇太子妃拜禮ノ儀注ヲ加フ

○天長節御舉行

明治元年八月二十六日 改正 六年太政官布告第二五八號  
行政官布告

十一月三日ハ 聖上 御誕辰相當ニ付毎年此辰ヲ以テ群臣ニ酬宴ヲ賜ヒ 天長節御執行相成天下ノ刑戮被差停候偏ニ衆庶ト御慶福ヲ共ニ被遊候 思召ニ候間於庶民モ一同御嘉節ヲ奉祝候様被 仰出候事



御祭典附祭祝日

一六二

明治三年九月七日 改正 六年第二五八號  
太政官布告

十一月三日 聖上御誕辰每歲此日ヲ以テ天長節トシ群臣ニ酬宴ヲ賜ヒ天下ノ刑戮ヲ停メ衆庶ト御慶福ヲ共ニ被爲 遊度旨一昨年御布告ニ相成候處未タ末々迄御旨意貫徹不致向モ有之趣ニ付府〔藩〕縣共此旨篤ト奉體シ衆庶一同 御慶辰ヲ奉祝候様可致旨更ニ被 仰出候事

○五節ヲ廢シ祝日ヲ定ム

明治六年一月四日 改正 六年第九一號  
太政官布告第一號

今般改曆ニ付人日上巳端午七夕重陽ノ五節ヲ廢シ〔神武天皇即位日〕天長節ノ兩日ヲ以テ自今祝日ト被定候事

○祭日祝日ノ制

明治六年十月十四日 改正 一二年太政官達二三號、一二年太政官布告第二七號  
太政官布告第三百四十四號

年中祭日祝日等ノ休暇日左ノ通候條此旨布告候事

元始祭 一月三日  
新年宴會 一月五日

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

神武天皇祭 四月三日

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月二十三日

春季皇靈祭 春分日

秋季皇靈祭 秋分日

明治三十三年八月二十一日(摘録) 改正 (略ス)  
文部省令第十四號

小學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校令施行規則

第二十八條 紀元節、天長節及一月一日ニ於テハ職員及兒童學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

一 職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス

二 職員及兒童ハ

天皇陛下

御祭典附祭祝日

一六三



- 皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ
- 三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
- 四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
- 五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
- 御影ヲ拜戴セサル學校及特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク又唱歌ヲ課セサル學校ニ於テハ第一號及第五號ノ式ヲ闕クコトヲ得

明治四十年十月八日  
臺灣總督府令第八十一號(摘錄)

臺灣小學校規則左ノ通定ム

臺灣小學校規則

第十六條 紀元節、天長節、一月一日及始政紀念日ニ於テハ職員及兒童小學校ニ參集

- シテ左ノ順序ニ從ヒ儀式ヲ行フヘシ
- 一 職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス
- 二 職員及兒童ハ
- 天皇陛下
- 皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

- 三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
- 四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
- 五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
- 御影ヲ拜戴セサル小學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

明治四十一年二月二十七日(摘錄)  
關東都督府令第五號

關東州小學校規則左ノ通相定ム

關東州小學校規則

第十六條 紀元節、天長節、一月一日及始政紀念日ニ於テハ職員及兒童ハ小學校ニ參集シテ左ノ順序ニ從ヒ儀式ヲ行フヘシ

- 一 職員及兒童ハ「君ガ代」ヲ合唱ス
- 二 職員及兒童ハ
- 天皇陛下
- 皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ
- 三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
- 四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
- 五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス



御影ヲ拜戴セサル小學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

明治四十一年三月三十一日(摘録) 改正(略ス)  
内務省令第六號

權太ノ小學校ニ關スル件施行方左ノ通之ヲ定ム

第一條 明治四十一年勅令第四十五號第一條ニ依リ内務大臣ニ於テ定ムヘキ事項ニ付  
テハ小學校令施行規則中第九十八條乃至第二百一十一條、第三百三十二條、第五百五十九  
條、第七百七十條、第七百七十二條、第七百七十四條乃至第八百八十五條、第二百二十二條乃  
至第二百二十三條ヲ除キ其ノ他ノ規程ヲ準用ス

明治三十四年三月五日(摘録) 改正(略ス)  
文部省令第三號

中學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

中學校令施行規則

第十九條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フ  
ヘシ

明治三十四年三月二十二日(摘録) 改正(略ス)  
文部省令第四號

高等女學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等女學校令施行規則

第二十六條 紀元節天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フ  
ヘシ

明治四十年四月十七日(摘録) 改正(略ス)  
文部省令第十二號

師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

師範學校規程

第四十三條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行  
フヘシ

第七十五條 附屬小學校及附屬幼稚園ニハ(前略)小學校令施行規則第一條乃至第二十  
八條(中略)ヲ準用ス(下略)

御服喪

○皇室服喪令

明治四十二年六月十一日  
皇室令第十二號

御祭典附祭祝日 御服喪



朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室服喪令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
皇室服喪令

第一章 總則

- 第一條 父、母、夫ノ喪ハ一年トス
- 第二條 祖父母、夫ノ父母、妻ノ喪ハ百五十日トス
- 第三條 曾祖父母、母方祖父母、父ノ兄弟姉妹、兄弟姉妹ノ喪ハ九十日トス
- 第四條 高祖父母、嫡母、繼母、夫ノ祖父母、母ノ兄弟姉妹、父ノ異父兄弟姉妹、異父兄弟姉妹、子ノ喪ハ三十日トス
- 第五條 男系ノ孫、父ノ兄弟ノ子、母ノ異父兄弟姉妹、兄弟ノ子、夫ノ嫡母繼母、妻ノ父母ノ喪ハ七日トス
- 第六條 母方高祖父母、母方曾祖父母、男系ノ曾孫玄孫、父ノ姉妹ノ子、姉妹ノ子、異父兄弟姉妹ノ子、母ノ兄弟姉妹ノ子、女系ノ孫ノ喪ハ五日トス
- 第七條 七歳未滿ノ孺ニハ喪ヲ服セス
- 第八條 天皇ハ皇族ニ非サル親族ノ爲ニハ喪ヲ服セス
- 第九條 皇族ハ同族又ハ華族ニ非サル親族ノ爲ニハ喪ヲ服セス
- 第十條 第四條乃至第六條ノ規定ハ華族ノ家ニ在ル者ノ爲ニハ之ヲ適用セス但シ皇族ヨリ華族ニ列セラレ又ハ華族ノ家ニ入リタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 華族ノ養女ニシテ皇族ニ嫁シタル者ハ養方ノ親族ノ爲ニモ亦第一條乃至第三條ノ規定ニ從ヒ喪ヲ服ス

第十二條 二様ノ親族關係アルトキハ喪ハ其ノ重ニ從フ

第十三條 兩喪重複スルトキハ重複ノ間其ノ重ニ從フ

第十四條 服喪ノ日數ハ崩御薨去又ハ死亡ノ日ヨリ起算ス

第十五條 大喪ニハ皇族及臣民喪ヲ服ス

宮中喪ニハ皇族及宮内官喪ヲ服ス

前二項ノ規定ハ神祇ニ奉仕スル職員ニハ之ヲ適用セス

皇族親族ノ喪ニ丁ルトキハ其ノ附屬ノ宮内官喪ヲ服ス

第十六條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃薨去ノ場合ニ於テハ其ノ日ヨリ三日間及喪儀ヲ行フ當日臣民喪ヲ服ス但シ七歳未滿ノ孺ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

親王親王妃内親王王王妃女王國葬ノ場合ニ於テハ喪儀ヲ行フ當日臣民喪ヲ服ス

第十七條 特別ノ事由ノ爲除喪スルハ臨時ノ勅定ニ依ル

第十八條 喪服ニ關スル規程ハ勅定ニ依リ宮内大臣之ヲ公告ス

第二章 大喪

第十九條 天皇大行天皇太皇太后皇太后皇后ノ喪ニ丁ルトキハ大喪トス

第二十條 天皇ハ第二條乃至第七條ノ規定ニ拘ラス大行天皇及皇太后ノ爲ニハ一年ノ



喪ヲ服シ太皇太后ノ爲ニハ百五十日ノ喪ヲ服ス

第二十一條 大行天皇及皇太后ノ爲ニスル大喪ヲ諒闇トス皇妣タル太皇太后ノ爲ニスル大喪亦同シ

第二十二條 大喪ニ關スル事項ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三章 宮中喪

第二十三條 天皇喪ニ丁ルトキハ大喪ヲ除クノ外宮中喪トス

第二十四條 天皇ハ第四條及第五條ノ規定ニ拘ラス皇太子皇太孫ノ爲ニハ九十日ノ喪ヲ服ス但シ七歳未満ノ傷ニハ第七條ノ規定ニ拘ラス三日ノ喪ヲ服ス

第二十五條 天皇親族關係ニ拘ラス皇太子妃皇太孫妃ノ爲ニハ三十日ノ喪ヲ服ス

第二十六條 服喪範圍外ノ皇族ノ爲ニハ特ニ五日以内ノ宮中喪ヲ發スルコトアルヘシ

第二十七條 外國ノ凶訃ニハ特ニ宮中喪ヲ發スルコトアルヘシ

第二十八條 宮中喪ニ關スル事項ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第四章 喪期區分

第二十九條 一年ノ喪ハ之ヲ三期ニ分チ第一期第二期ハ各五十日トシ殘ル日數ヲ以テ第三期トス

第三十條 百五十日ノ喪ハ之ヲ三期ニ分チ第一期第二期ハ各三十日トシ第三期ハ九十日トス

- 第三十一條 九十日ノ喪ハ之ヲ二期ニ分チ第一期ハ二十日トシ第二期ハ七十日トス
- 第三十二條 三十日ノ喪ハ之ヲ二期ニ分チ第一期ハ十日トシ第二期ハ二十日トス
- 第三十三條 七日以下ノ喪ハ期ヲ分タス

敬禮 附服裝區分

○行幸御道筋通行者敬禮方

明治六年三月九日  
大政官布告第九十六號

行幸ノ節其御道筋通行ノ者〔旗章〕ヲ見受候ハ、車馬ヲ下リ笠竝帽等ヲ脱シ總テ路傍ニ立禮可致事

○皇太后皇后行啓ノ節皇后旗掲揚竝御道筋通行者敬禮方

明治六年四月十四日  
大政官布告第三百三十四號

皇太后宮 皇后宮行啓ノ節御馬車ハ〔別紙ノ旗章〕ヲ掲ケ候條其道筋通行ノモノ禮式ハ



敬禮

一七二

行幸同様可相心得候事

(別紙圖式改正ニ付略ス)

明治七年十月二十八日  
内務省達乙第六十五號

府縣

行幸行啓ノ節禮式ノ儀ハ明治六年三月第九十六號同四月第百三十四號公布ノ旨モ有之  
一般熟知ノ筈ニ候處猶通御ノ際敬禮ヲ失シ候者往々有之哉ニ相聞甚不相濟儀ニ付前條  
公布ノ趣下々ニ至ル迄普ク通徹候様可取計此旨相達候事

○文官大禮服着用ノ節禮式

明治八年二月九日  
太政官達第十八號 改正 八年第八一號

院省(使)廳府縣

文官大禮服着用ノ節敬禮式左ノ通被定候條遵行可致此旨相達候事  
文官大禮服着用ノ節敬禮式

○判任官ノ通常禮服ヲ以テ大禮服ニ換用ノ節モ亦本件ニヨル  
○最敬禮

即チ從前ノ罄折ニシテ

天皇ニ對シ及ヒ祭祀參拜ノ節此式ヲ行フ

帽ヲ脱シ左腋ニ插ミ腰ヲ屈メ右手ヲ膝ニ當テテ拜ス即チ第一圖ノ如シ若シ宮中等  
ニテ帽ヲ著セサル時ハ兩手ヲ膝上ニ當ツル第二圖ノ如シ其祭服着用祭祀奉祀ノ者  
ハ總テ此限ニアラス

○敬禮

臣民相互ノ接遇ニ此式ヲ行フ公門内ニ於テハ知ルト知ラサルトヲ論セス之ヲ行  
ヒ公門外ニ於テハ相知ラサル者ハ之ヲ行フニ及ハス  
第三圖式ノ如ク帽ヲ脱シテ少ク領ス其宮中等ニテ帽ヲ着サル時ハ僅カニ其頭ヲ領  
スルノミ

○(右ノ外大舍人ノ分番中ハ着帽タルヘク

天皇通御ノ外禮式ヲ行フコトナシ但

天皇通御ノ節最敬禮ヲ行ヒ三職送迎ノ者及ヒ雜役奉務中ハ敬禮ヲ行フ一般ノ式ニ  
同シ

○諸門ノ番兵并ニ儀仗兵等文官ニ對シ禮式ヲ行フ時ハ文官ヨリ敬禮ヲ以テ之ニ答フ  
ヘシ但己ヨリ先ツ禮ヲ行フヘカラス其 車駕ニ扈從シ又ハ公事整列ノ節ハ答禮ニ  
及ハス

敬禮

一七三



○朝拜其他諸儀式等ニテ列立ヲ要スヘキ時ハ第四圖式ノ如ク整立シ地上ニ於テハ着帽ノ儘タルヘシ但此際脱帽行禮スルハ一般ノ禮式ニヨルヘシ

○非職有位ノ者ハ禮式總テ本文ニ同シ

(圖式略ス)

○警察禮式(摘録)

明治二十四年八月十日  
内務訓令第十五號 改正 三三年第一三號

廳府縣〔鐵道廳〕  
ヲ除ク

警察禮式左ノ通り相定ム

但明治十九年當省訓令第十九號ハ自今廢止ス

警察禮式

- 第一條 警察官吏ニシテ定制ノ服裝ヲ爲シタルトキハ本式ニ依リ禮式ヲ行フモノトス
- 第五條 禮式ヲ別テ室内ノ最敬禮敬禮、室外ノ最敬禮敬禮トス室内トハ居室事務室應接所等ニシテ廊下階段厨等ノ如キハ室外トス
- 第六條 室内ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシメ刀ノ柄ヲ前ニシ左手ヲ以テ兩鑲ノ間ヲ押ヘ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ但シ佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ
- 第八條 室外ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ

食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ刀ノ柄ヲ前ニシ左手ヲ以テ兩鑲ノ間ヲ押ヘ敬スヘキ人ヲ目送シ五六步過キ去ルマテ目送スヘシ但シ佩刀セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

第十條 天皇 三后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

外國ノ皇帝皇后及皇族ニ於ケルモ亦前項ニ同シ

第十一條 内閣總理大臣各省大臣正式勅使及ヒ上官ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ

(二項略ス)

第十二條 儀式祭典等ノ爲メ其場所ニ整列セルトキハ 天皇 三后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ對シ又ハ其儀式祭典ニ就キ禮式ヲ行フノ外總テ敬禮セサルモノトス

第十三條 整列シタルトキハ「氣ヲ付ケ」ノ令ニテ一同受禮者ニ注目シ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行フヘシ

隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ「頭右(左)」ノ令ニテ列員ノ頭首ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行フヘシ但シ行進中ハ最敬禮ヲ行フ場合ノ外停止スルニ及ハス

第十四條 警衛、消防、囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事中ハ禮式ヲ行フ



限リニアラス

第十五條 物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ若シ一手ニ携帶スルトキハ右手ヲ帽ニ當ツヘシ但シ巡查歩行中ナルトキハ停立シテ敬禮ノ意ヲ表スヘシ

第十九條 兩陛下ニ拜謁スルトキハ 御室ニ入り一タヒ最敬禮シ更ニ 玉座ヲ離ル、コト凡ソ五六歩ノ處ニ進ミニタヒ最敬禮ヲ行ヒ其儘二三歩退歩シ右回轉ヲナシ 御室ノ出口ニ於テ三タヒ最敬禮シ然後退去ス可シ但特ニ式アルトキハ此限ニアラス 太皇太后 皇太后 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族竝ニ外國皇帝皇后皇族ニ謁見スルトキ亦前項ニ同シ

第二十八條 行幸 行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍々前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面シ車駕五六歩前ニ近クトキ最敬禮ヲ行ヒ五六歩過キ去ル迄其姿勢ヲ保ツヘシ皇族及外國ノ皇帝皇后皇族ニ於ケル亦同シ

前項ノ場合ニ於テ馬上ニアルトキハ其儘馬ヲ駐メ正面シ道路狹隘ニシテ之ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ輕ヲ縮メテ馬首ヲ舉ケ乘車ナルトキハ下車スヘシ  
第三十七條 警視廳消防官吏ハ本式ニ依リ各自分相當ノ禮式ヲ行フヘシ

○監獄官吏禮式

明治三十年十二月十五日  
内務省訓令第二十五號

〔廳府縣 集治監 假留監〕

監獄官吏禮式左ノ通相定ム

監獄官吏禮式

監獄官吏ニシテ定制ノ服裝ヲ爲シタルトキハ總テ明治二十四年當省訓令第十五號警察禮式ノ例ニ依ル

○水上警察禮式(摘録)

明治三十三年五月二十三日  
内務省訓令第十四號

廳府縣 東京府  
ヲ除ク

水上警察禮式左ノ通之ヲ定ム

水上警察禮式

第一條 水上警察ノ船舶ニ於テ警察禮式ニ依リ最敬禮又ハ敬禮ヲ要スル人ヲ望見シ又ハ其ノ乗船ニ行逢ヒ若ハ之ヲ送迎スルトキハ本式ニ依リ禮式ヲ行フヘシ  
第二條 最敬禮ハ端舟ニ在テハ橈手一齊ニ橈ヲ立テ小蒸汽船ニ在テハ進行ヲ止メ船員ハ甲板ノ適宜ノ場所ニ整列シ帆走中ノ船ハ總帆ヲ下シ、櫓舟ハ進行ヲ止メ總員起立シテ禮式ヲ行フヘシ但シ一人ニシテ二艇ノ橈ヲ操ルトキハ禮ヲ受クル人ニ面セサル方ノ橈ヲ收メ他方ノ橈ヲ立テ起立シテ禮式ヲ行フモノトス  
「クラッチ」ヲ具備シタル端舟ニ在テハ橈ヲ上ケ橈手ノ外總員起立シテ禮式ヲ行フモ



ノトス

第四條 水上警察禮式ハ特ニ命令アリタル場合ノ外夜間ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五條 至急ノ用務ヲ帶ヒタルトキ又ハ風雨ノ際其ノ他禮式ヲ行フコト能ハサルノ狀況ニ在ルトキ竝ニ荷物ヲ積載シタル船又ハ他船ニ曳カレタル船ニ乗込メルトキニ於テ禮式ヲ行ヒ得サル者ハ之ヲ略スルコトヲ得舵手機關手水火夫等ニシテ執務上ノ妨ケト爲ル場合モ亦同シ

第十條 端舟ニ在テ最敬禮ヲ行フトキハ其ノ指揮者ハ左ノ號令ヲ用フヘシ但シ「ク」ラツチ」ヲ具備シタル端舟ニ在テハ第十一條ノ號令ヲ用フルモノトス

一 機立テ方用意

二 立テ一(機ノ平面ヲ左右ニ向ケ  
兩手ヲ以テ之ヲ把持ス)

三 下セ一

一人ニシテ二挺ノ機ヲ操ルトキハ前項第一ノ號令ノ前ニ左ノ號令ヲ加フヘシ第十一條ノ場合ニ於テモ亦同シ

左(右)舷收メ一(禮ヲ受クル人ニ面セサル  
方ヲ收メシムルモノトス)

第十二條 帆走中ノ船ニ在テ最敬禮ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ用フヘシ

一 帆下シ方用意

二 下セ一

三 上ケ一

第十四條 號令ハ端舟ニ在テハ舵ヲ掌ル者其ノ他ニ在テハ指揮者之ヲ爲スヘシ  
第十五條 本式ニ規定セサル事項ハ總テ警察禮式ノ規定ニ依ル

○港務部及臨時海港檢疫所職員並船舶ニ警察禮式水上警察禮式準用

明治三十五年五月六日  
內務省訓令第十二號

神奈川縣 兵庫縣 長崎縣 福岡縣  
臨時海港檢疫所所在道廳府縣

明治二十四年當省訓令第十五號警察禮式ハ定制ノ服裝ヲ爲シタル港務部及臨時海港檢疫所職員ニ明治三十三年當省訓令第十四號水上警察禮式ハ港務部及臨時海港檢疫所船舶ニ之ヲ準用ス

但明治三十三年當省訓令第十一號ハ之ヲ廢止ス

○小林區署職員服制禮式規程(摘錄)

明治三十六年十二月二十九日  
農商務省訓令第二十二號 改正 四二年第二七號

大林區署

小林區署職員服制禮式規程左ノ通相定ム  
小林區署職員服制禮式規程